

# 峰ヶ丘会報

題字 宇田 靖 会長

第161号 2023 (令和5). 08. 10

## 創立 100周年 同窓会会報特集号



### CONTENTS

農学部創立100周年記念事業についてのご案内	2
会長挨拶	3
農学部長挨拶	3
特集 農学部100周年によせて	4
退職のご挨拶	13
新任教員のご挨拶	13
追悼	14
支部総会	14
学生支援	15
コロナ禍学生支援第4弾	15
クラス会	16
特集 農学部100周年記念事業について	18
令和5年度理事会報告	22
支部長一覧	25
お悔やみ	25
決算書・予算書	26
お祝い・奇贈函書	27
編集後記	27
こんなことやってます	28



大11~昭18  
高等農林学校



昭19~23  
農林専門学校



昭24~36  
新制宇大



昭37~  
宇大校章

**MINEGAOKA NEWSLETTER No.161**  
*The Alumni Association*  
 Faculty of Agriculture  
 Utsunomiya University  
 Utsunomiya 321-8505 Japan  
 E-mail:minegaok@cc.utsunomiya-u.ac.jp



# 宇都宮大学農学部 創立100周年記念事業に ついてのご案内

宇都宮大学農学部は、その前身である宇都宮高等農林学校が1922（大正11）年に設立されてからお陰様で100周年を迎えました。そこで、これまでの歩みを振り返り、次の100年への大きな発展の契機とするため、農学部創立100周年「記念式典・講演会」、および「祝賀会（懇親会）」を、11月18日（土）に下記の通り開催いたします。また、「100周年記念誌」も販売いたします。

記

## 1) 記念式典・講演会

- ・日 時：2023年11月18日（土） 15：00～17：30（14：00から受付開始）
- ・開催場所：宇都宮ライトキューブ 3F中ホール（宇都宮市宮みらい1-2）
- ・講演者：「100周年を振り返り」 杉田 昭栄 名誉教授（生物資源科学科）  
「私の歩みと宇大農学部」 同窓生 計4名
- ・参加対象者：来賓、同窓生、学生、教職員（定員500名程度）
- ・参加費：無料
- ・その他：当日参加も受け付ける予定ですが、会場収容人数の定員がございまして、参加ご希望の方は、なるべく\*事前申込をお願いいたします。

## 2) 祝賀会（懇親会）

- ・日 時：2023年11月18日（土） 18：00～20：00（17：00から受付開始）
- ・開催場所：ホテルマイステイズ宇都宮11階 グランドホール
- ・内容：立食パーティー（椅子も用意する予定です）
- ・参加対象者：来賓、同窓生、学生、教職員（定員280名）
- ・参加費：10,000円
- ・その他：事前登録制といたします。参加ご希望の方は\*事前申込をお願いいたします。

## 3) 記念誌（同窓会報CD付き）

- ・販売価格：5,000円
- ・400部限定です。\*事前申込された方に優先販売いたします。

\*内容についての詳細は「特集：農学部100周年記念事業について」（P18）をご覧ください。

\*詳細な情報については農学部のホームページでもお知らせいたします。

### 〈\*事前申込について〉

農学部創立100周年「記念式典・講演会」、「祝賀会（懇親会）」への出席、「記念誌」の購入をご希望の方は、折り込みの返信用返信用ハガキ、または右のQRコードから、10月10日までにお申し込みください。







## 会長挨拶

峰ヶ丘同窓会会長

宇田 靖 (化昭45卒)

峰ヶ丘同窓会会員の皆様、お元気にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

5月下旬の現在、1医療機関当たりのコロナウイルス感染者数は最盛期の30人近くから3人程度まで落ち着いてきて、支部総会やクラス会の開催も聞こえるようになりました。

昨夏以降の当会活動の一つは、コロナ禍で経済的困難が増している学生支援でした。本年も1月末から2月初めの後期試験中の3日間、新たな学生支援として宇大ブランド米(ゆうだい21)900kgを生協食堂に委ね、1食200円のハラール牛丼として提供し、学生、教職員からも好評を得ました。この取り組みはNHK宇都宮放送局と下野新聞の取材も受けて報道されました。

かねて、母校では高農時代の遺産建造物である旧講堂、旧図書館書庫であった石蔵を含むフランス式庭園やイギリス式庭園などの一帯をヒストリカルゾーンとして整備する

計画で、この2月から高農創立2年後(1924)に建造された石蔵A棟と1957年に追加建築された石蔵B棟の解体撤去工事を進めていましたが、3月になって急遽、建築学的にも文化的にも価値が高いとされてきた石蔵Aを残し、可能な補修を加えて保存することと併せて、このゾーン全体の整備計画も見直すことに変更されました。

同窓会常任理事会は、昨年以來、石蔵の全面解体には懸念を表明しましたが、解体が確定されたことから、A棟に使用されている高農時代の校章を刻んだ芦野石や良質な大谷石を利用して農学部創立100周年記念碑の建立計画を検討していたところでした。しかし上記のように「高農時代の歴史的文化的ゾーンの整備」がなされることになり、峰ヶ丘同窓会としてもこの計画に対し可能な協力を検討中です。本年6月開催予定の令和5年度理事会においてもご意見などを頂きたいと考えています。

また、本年11月18日には、農学部創立100周年記念事業が開催されます。峰ヶ丘同窓会としても創立100周年をお祝いするとともに、母校のいっそうの発展を願って会報第161号(本号)では記念特集を組んだところです。また、これまで4年ごとに刊行されてきた冊子体の当会会員名簿は、本年秋の発刊が最後になります。同窓生の絆として重要な役割を果たしてきた会員名簿も時代の流れとともに空白箇所が目立つようになり、刊行の停止に至った次第です。峰ヶ丘同窓会会員の皆様のご理解をお願いいたします。



## 農学部長挨拶

農学部長

山根 健治

峰ヶ丘同窓会の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。私は令和3年4月より農学部長を務めさせて頂いております山根と申します。この度は100周年の節目の同窓会報に紙面を頂き、ご挨拶と農学部の近況報告を申し上げます。同窓会の皆様には「100円カレー」、「ハラール牛丼」の企画や学費支援、見舞金など、学生諸君と農学部に様々なサポートを頂き、深く感謝しております。

お陰様で、コロナ禍も落ち着き、授業、実習、実験、サークル活動など全て対面で行えるようになりました。農学部では同窓会からの支援も頂き、研究活動などで貢献があった教員と学生に栄誉賞、奨励賞、学生特別貢献賞をお贈りしております。令和4年度は21名の学生が受賞されています。入試につきましては令和5年度の倍率は3.5倍程度にやや改善し、少しずつ受験生が戻って来ているところです。最新の就職状況ですが、学部生の56%が就職、40%

が進学しております。

昨年度に文科省と本学より12億円余りのサポートを頂き、附属農場の牛舎と管理棟が40年ぶりに新築・整備されました。附属農場はGAPを活用した酪農の実践が評価され、GAP実践大賞2022特別賞を受賞しました。前田忠信先生育成のゆうだい21は全国の食味コンテンスで高い評価を頂いておりますが、昨年から全学的にゆうだい21プロジェクトを進めている中で、栃木中央食販様に加えて全農パールライス様でも取扱い頂き、スーパーなどでもよく目にするようになりました。船生の演習林のヒノキやスギはウッドショック以降も高い評価を頂いております。本年3月に栃木県と林業人材の確保について協定を締結し、栃木県林業大学校(仮称)の実習の場として船生演習林を活用頂くことになりました。

さて、中央教育審議会において、教育における「不易流行」の重要性が見直されています。私たちとしまして、変わらない農学教育の本質を見失わず、時代の変化にも対応していく農学部でありたいと考えております。この2年にわたり新しい農学部に向けての改組に取り組んで参りました。まだ、結論はこれからですが、いずれの形になりにしても、同窓生の皆様には引き続きお力添えを頂きたく、よろしく願い申し上げます。末筆ながら、皆様のご健勝をお祈りするとともに、100周年の記念式典でお目にかかれるのを楽しみにしております。



# 農学部 100周年 によせて

## — あの頃を振り返る —

昭和48(1973)年3月 農業開発工学科卒業  
堀井 潔

カーラジオから流れる森田公一とトップギャランの歌「青春時代」を懐かしく聞きながら思い出したのは、卒業を控えた約50年前の2月頃の出来事です。当時、私は農業施設学研究室に在籍する4年生でしたが、担当教官である小出進教授から、「今日卒業判定会議があり、君は必修単位である測量実習の単位が取れていないので、このままでは卒業できないと判断された。直ぐに担当教官の伊藤(精延)先生の部屋に行って詳しい話を聞いて来なさい。」と指導を受けた。

測量実習の単位が取れていないとは?と思いつつ、農学部南棟5階の研究室から階段を駆け下り、廊下を走って中央棟1階の農地造成学研究室の伊藤助教授を訪ねて、開口一番「小出先生から私は測量実習の単位が取れていないので卒業できないと言われました。」と話したところ、伊藤先生は、私に向かって「まあ座れ」と、事務職の女性には「私にお茶を、堀井君にも」と話された。暫くしてお茶が出ると、先生からは「最初に急須に入れたお湯は茶葉を洗ってすぐに捨てるのが肝心である。また、お茶を入れるときの湯加減が大切である。社会に出るとお茶を出す機会があるかと思う。等々」、肝心な話しはそっちのけで、お茶談議が延々と続いた。

こちらは弱みがあるので、拝聴していた話がようやく一区切りがついたところで、私が「あの一、先生」と言うと、先生は「あ一、そうだった。君は2年生の時のフランス式庭園の平板測量の図面が未提出だった。」と言われた。2年生の後期は、所属していた弓道部が関東代表となって伊勢神宮大会に向けての強化練習や遠征が重なると共に友達との付き合いで、つつい図面作成を後伸ばしにして遂には忘れ去ってしまったことに気が付いたが、後の祭りであった。

ようやく伊藤先生からの「君たちのクラスで一番出来の良い図面がここにあるから、明日までにこれを写して持って来るように」とのご宣託を受けて、その夜は墨で手を真っ黒にして慣れない烏口を使って線を引き、絵の具で彩色を

施して悪戦苦闘の末にようやく明け方になって一夜漬けの平面図が完成した。その成果により2年生の測量実習は「可」を頂戴して、無事卒業することが出来たという苦い思い出となった。付け加えると、私が参考にさせてもらった立派な図面を書いた、新型コロナ前は共に同級会、海外旅行で一緒だった級友が喜寿を前に他界したことは真に残念であった。

私は、その後宇都宮大学院に進み、2年後には農林水産省構造改善局建設部水利課という部署に配属された。当時、新人教育の一環として、農業工学職の新人は朝1時間前に出勤して、課長を始めとした職員の机の拭き掃除とお茶出しを1年間経験させてもらった。特にお茶出しは、お茶の熱さや濃さに好みのある先輩がおられて随分苦労したが、あの時に上の空で聴いていた伊藤先生のお茶談議が役に立ったことは言うまでもない。

昭和56(1981)年3月 農芸化学科卒業  
高橋 英二

私は、1981年3月に宇都宮大学農学部農芸化学科を卒業し、卒業後は、地元である群馬県庁に入庁しました。入庁後は、当時の園芸試験場、農業総合試験場と11年間、試験研究機関で研究に従事しましたが、その後は、本庁で行政事務を経て、2019年3月に県立農林大学校で定年退職となりました。

当時、地元群馬県には、農学部のある大学はなく(現在は、高崎健康福祉大学に設置されている)、近隣で、農学部のある大学と言えば、新潟、信州、宇都宮でしたが、伝統ある宇都宮大学農学部を受験しました。

大学生生活の思い出は、農芸化学科でしたので、3年次の農化棟での実験です。ビーカーや試験管などを使い、クラスメートとわいわい・ガヤガヤしながら実験・実習などしたことが懐かしい思い出です。4年次になり、私は、前田先生・宇田先生(現同窓会長)の食品化学研究室にお世話になりましたが、当時は、まだのんびりした時代だったので、研究室で、卒論研究の間に、よく先生方と将棋をしたり、お酒を飲んだり、楽しく過ごしたことを覚えています。

また、部活動では、体育会スキー部に入部し、冬場はスキー場での合宿、夏場は週3~4日、放課後の厳しい筋トレ練習と明け暮れたことを思い出します。

こんな生活をしていましたので、食事は、生協の豚汁定食、カレーライスが多かったように記憶していますが、お金がないときは、ライスだけ注文し、テーブルにおいてある醤油をかけて食べたことを思い出します。また、東門前の平和堂(ピンフ)の丼物は、安くてうまくて絶品で、貧乏学生の強い味方でした。



思い出のフランス式庭園：堀井様よりご提供





昭和54(1979)年頃の農芸化学科3年次の実験風景(試験管を見つめているのが筆者)と、当時の農学部スポーツ大会(農芸化学科のクラスメートと記念撮影):高橋様よりご提供

昭和63(1988)年頃の実験風景と、雷鳴寮の寮祭:小峯様よりご提供ではなく、宇都宮大学農学部に進学しました。

こんな楽しい学生生活も4年間で終了となり、群馬に戻り就職したわけですが、試験研究機関での勤務では、仕事を進める上で、前田先生・宇田先生をはじめ、宇大の先生方には、何かと助言を頂き、感謝しかありません。最後は、農林大学校という教育機関での勤務でしたが、学生達と楽しく過ごすことが出来たのも、宇都宮大学農学部で学んだ経験が大きかったと思います。

大学では、園芸学教室に所属しました。1年生の時に研究室の藤重宣昭先生にお願いして研究室で管理していた圃場の一部をお借りして、園芸植物の栽培をさせていただきました。研究室は校舎の1階にあったこともあり、夏には研究室の仲間と圃場近くの竹林からタケを切って節を抜き、実験台の水道から水を流して流しそうめんをして暑気払いをしたり、実験で使い処分するハーブで料理を作り、同期生たちとの交流を深めることができました。大学院時代には、当時学芸員の資格に必要な単位が大学では講座がなく取得できなかったことから、大学側をお願いし、単位取得のため埼玉大学の聴講生となることを承認いただきました。前例のないことも検討していただき、チャレンジさせていただけたことがありがたかったとともに、柔軟な大学の姿勢を感じられ、感謝しております。また、私は工学部の敷地内にある自治寮の雷鳴寮で寝食をしておりましたので、新入生歓迎コンパ、男体山登山、東武日光駅から寮まで走る日光マラソン、赤禪で神輿を担ぎ、寮から峰キャンパスを回り、二荒山神社をお参りし、東武デパートでトイレ休憩して戻ってくる雷鳴寮祭など、他学部の学生との交流もできました。

また、峰ヶ丘同窓会群馬県支部も、毎年秋に、総会・懇親会を盛大に開催(コロナ禍で直近3年は出来ず)しており、これからも親睦を深めていきたいと思っています。

宇都宮大学農学部100周年 あっぱれ!

### 昭和63(1988)年 農学科卒 小峯 洋一

私は、1988年に宇都宮大学農学部農学科を卒業し、1990年に大学院修士課程を修了しました。研究室では、若林荘一先生、関谷治男先生、尾形亮輔先生、山根健治先生にお世話になりました。卒業後は林学科の大久保達弘先生の紹介で、南那須町役場に就職し、2006年の市町村合併により現在は、那須烏山市教育委員会事務局生涯学習課で文化財の保護及び活用に関する仕事をしています。

実家は、私が小学生の頃まで狭山茶の製造する製茶工場でした。中学生、高校生の頃には、熱帯魚の飼育をするとともに水槽で水草を育て繁殖させ、出入りしていた個人経営の熱帯魚屋さんへ水草を持っていき、他の水草や熱帯魚と交換してもらったり、茅ヶ崎愛瓢会に参加し、様々な瓢箪の栽培や加工をするなど、園芸や植物に親しんでいたことから、植物の栽培を学びたいと考え、教育学部や理学部

就職時の仕事は、自然観察指導員でした。地域の人たちと様々な生き物の観察をするにあたって、応用昆虫学教室が事務局となっている昆虫愛好会(現在はとちぎ昆虫愛好会)にも所属し、高橋滋先生にお世話になりました。現在も「志鳥田んぼの学校」や「宇都宮シルビアシジミ保全会」の活動で親しくさせていただいています。現在、私は那須烏山ジオパーク構想推進協議会の事務局でもあり、地質学教室の酒井豊三郎先生、教育学部の松居誠一郎先生(故

人)、農学部卒業生で栃木県立博物館名誉学芸員である柏村勇二先生には、アドバイザーとして参画していただき、酒井先生、柏村先生には今もお世話になっております。また、令和5年3月に国史跡に指定された烏山城跡の整備指導委員会には、大久保達弘先生に遺跡内の森林管理について参画していただく予定となっております、大学での交流が今も続いています。

在学中、勉学に関してのびのびと自由に学びの場を与えていただいた大学と先生方に本当に感謝するとともに、宇都宮大学農学部にて在学できたことを誇りに思っています。

### 昭和45(1970)年3月 林学科卒 大槻幸一郎

宇都宮大学で学んだ4年間。思い起こせば57年程前の遠い過去の事となってしまったが、人生の基礎を創ってくれた貴重な時間で有ったと感謝している。

宇都宮の雷の多さに驚くも、閃光の美しさに惚れ込んだり、故郷秋田の雪の多さと比較して、冬でも雪降らぬ快晴の青空の多さに「こりゃ秋田で農業やってもかないっこねーべ」と嘆いたり、色白で目が大きな秋田美人や郷土料理キリタンポのような強く惹きつけるものが北関東には残念ながら、なかなか見当たらずに不満がっていた事も思い出す。

父は戦後の経済ブームを支えた紙パルプ会社で働いており、機会あるごとに連れて行かれたブナ林の美しさに憧れ、山から届けられる薪材やナメコ等に一層の興味を惹かれていた。これがキッカケでの農学部林学科の入学となったが、専門課程では森林計画に興味を持ち、森林経理学研究室では超難解な森林統計学の壁に挑むことになる。加えて夏休みには、研究室の先輩が勤務している帯広営林局でのアルバイトで森林調査の辛さを嫌というほどに思い知ら



昭和44(1969)年5月の船生演習林での測量実習(中央で帽子をかぶり立っている)と、現在の大槻様(2023年5月に自宅の庭で):大槻様よりご提供



される事になる。根曲竹をかき分けて航空写真にマークされたサンプリング調査点に行き着く苦労は大変なもので、地下足袋は1週間でボロボロになる。その辛さは船生演習林での測量実習の比ではない。この反動から、翌年の夏休みには如何に楽をして森林調査を行えるかのために、航空測量会社にアルバイトに入り、航空写真を利用した森林調査技術を学ぶこととなる。しかし、計測に使われる精密機器の精度の高さに比較して、それを操作する人間の感覚の幅(誤差)は消し難く、何とか電磁波などでの自動計測の方法がないものかの素朴な疑問を指導教官たる社員にぶつける生意気な学生であった。いわばアナログの限界からデジタルの発想の必要性を直感していたのかも知れない。

霞が関・林野庁や県での役人生活35年を経て、学生時代のアルバイト先でも有った航空測量会社で第二の人生を送る事になったが、そこで目にしたのがレーザー計測による地形解析技術であった。学生時代の妄想にも近かった発想が、アメリカの軍事技術の延長から実用化されており、これが森林資源調査に画期的な変化をもたらしてくれると直感した。この技術の応用で、樹木の一本一本を樹高・胸高直径・樹種等が計測できるとすれば、これまでのサンプリング調査を基本とする難解な森林統計学からの開放にも繋がる。他社に先駆けてこの技術の森林分野への実用化に結びつけることになったが、その原点は我ら団塊の世代が体験した学園紛争に原点がある様に思う。大学改革に情熱を燃やしたその心には、真理を求める強い好奇心が燃えていればこそのものであったと思う。我が青春は、「何だろうな?」の好奇心がある限りこれからも続くと信じたい。

### 平成元(1989)年3月 林学科卒 川上 晴代

(栃木県東環境森林事務所)

男子多い、緊張する、やっていけるかなあ。女子高から進学した私はずが感じたことです。クラスには女子が2割弱でした。そんな私が平成元(1989)年3月に農学部林学科を卒業し、4月に栃木県庁に林業職として採用され、主に木材の利活用や団体の指導など林業普及指導に従事してきました。男性社会である林業にどっぷりと浸かり、現在は、栃木県東環境森林事務所(真岡市)の所長をしております。

宇都宮大学は私の家から近く、子どもの頃から親しみをもち、将来は入学したいと思っていました。自然の中でのびのびと学習できるようでしたので、林学科を選択しました。樹木学や測量などの実習が多く、宿泊を伴う実習もありました。船生演習林(塩谷町)には宿泊施設「愛山寮」がありましたが、当時は女子専用の部屋はなく、女子は全員娯楽室(麻雀部屋)に宿泊し、浴室は一つしかないため女子が入浴中とわかるよう札を表示するだけ。男子の後に入浴したら、お湯が黒かったことも…。野外での実習は楽しいものでしたが、標本作製のために採取した木の葉に虫がいて悲鳴を上げたところ、「何騒いでるの!」と女子から



注意され驚き、虫嫌いを克服しなくてはと思ったものの全く成長しておらず、未だに虫嫌いです。林学科は、白根山登山や実習での共同作業もあり、同級生や先生方との絆が他の部学科より強かったと思います。研究室は林産加工学研究室で、出井利長先生、吉澤伸夫先生、横田信三先生にお世話になりました。研究室対抗ソフトボール大会や、きのご狩り（夜はきのご鍋とお酒）、先生のお宅で奥様の手料理をいただいたりと楽しい思い出ばかりです。3年生後期に出井先生から、「栃木県では来年度も女性の林業職を採用するそうだ（採用が約束されたものではない）」と薦められ、栃木県職員採用試験を受験しました。男女雇用機会均等法施行後間もない頃でしたので、県では女性に受験して欲しいと考えていたのでしょう。今私が、栃木県職員として活躍できているのも、出井先生の一言があったからです。

大学で林業について学んだこと、同級生や先生と築いた関係は、現在も栃木県で林業職として働く私の財産です。また、1学年違いの方々とは長い付き合いで、色々な面で助けてもらっています。他県に就職した同級生とは情報交換も続けています。全国に同窓生がいるので、大学の話題から入り緊張せず話を進めることもできました。沖縄県石垣島に旅行した際、ご家族が宇都宮大学農学部出身の方にお会いしたこともありました。都道府県庁や林野庁勤務の同窓生とは会う機会も多いのですが、お目にかかることのできない同窓生がたくさんいらっしゃいます。100周年の機会に大学にいらっしゃいましたら、150年を迎える栃木県で、私なりのおもてなしをさせていただきますので、ご連絡お待ちしております。

そして学生の皆様、ぜひ栃木県職員となり、私たちとともにとちぎの未来をつくりませんか。



昭和62(1987)年10月船生演習林での炭焼き実習と、平成27(2015)年8月栃木県職員（林業職・女性）懇親会：川上様よりご提供

#### 平成4(1992)年 農学研究科修了

川村 学 (旧姓：近内)  
(株式会社サカタのタネ)

1986年に宇都宮大学農学部農学科・1990年同大学大学院農学研究科に入学、故皿嶋先生、松澤名誉教授の指導のもとアブラナ科育種研究に没頭。1992年同大学を卒業。同年株式会社『サカタのタネ』に入社・ブロッコリー育種を約25年担当し、現在掛川総合研究センターの農場長を務めております。

宇都宮大学農学部には実家が農家のため、農業に貢献できるなにかを学ぶために入学しました。柔道部や研究室活動（ソフトボールやテニスなどスポーツ三昧でしたが）を通して得た仲間との飲み会は最高でした（記憶を失った事もしばしばありましたが、今となってはそれもまたよき記憶です）。学会参加や部活の遠征地で飲んだこともよき思い出ですが、いまはなき生協企画であるビアホールでの飲み会は、一生忘れられない思い出です。当時コンピューター居酒屋と称していた“かみよし”や名物からあげの“正善”、柔道部合宿の朝食でお世話になった“たつみ食堂”、研究室内の飲み会の際に買い出しにいった“鳥義”のやきとりなどなど、学生時代の飲食をささえてくれたお店ばかりです。今でもやっているのでしょうか？もう一度、お邪魔したいですね。

大学での研究経験を活かし、『サカタのタネ』でブロッコリー・カリフラワーの育種を約25年担当し、少なからず私が育成した品種を世の中に出すことができました。その間、



現在の川村様。今年1月に久しぶりにUSAを訪問、アメリカの父とよんでいるジェリーさん（研修時に大変お世話になりました）と近くのワイナリーでの1枚。ジェリーさんの家でしこたま飲んだ後（泥酔しております）に試飲したので、味はまったく覚えていません。ジェリーさんにいわれるままにお土産のワインを3本購入して帰国しました。左から、川村さん、ジェリーさん、会社の若手社員。



上記ジェリーさん宅でのランチ時の1枚。写真についてのコメント：ジェリーさんは料理が得意で、すべて手作りです。定番のBBQに加え、ワインにあうおつまみが用意されており、しこたま食べて飲みました。自前のワインセラーをもっており、たくさんのワイン在庫があります。：川村様よりご提供

ブロッコリーの国内外の産地を訪問し、たくさんの人との交流ができました。お金にかえられない貴重な財産です。また『サカタのタネ』入社後すぐにアメリカ研修という機会を得て、カルフォルニア州サリナスに1年間滞在した時ですが、当初英語が聞き取れず毎日不安な状態が続いていました。そんな中、現地スタッフに柔道場を紹介してもらい、アメリカのオリンピック候補選手との練習機会を得ました。彼にとって日本的柔道をする私はよき練習相手だったようで、練習時の送迎はもちろん大学での合同練習への同行他、観光地の案内など彼の家族ぐるみのお付き合いをさせていただきました。ご察しのように、その後の私のアメリカ生活は、公私ともに非常に楽しく・充実したものとなりました。改めて、柔道をやっていたよかったという思いと心の通じあう仲間がいることが大切だと感じました。

100周年誠におめでとうございます。今回は、100周年記念特集への寄稿の機会をいただき、本当にありがとうございます。原稿を書いている、タイムスリップしたごとく、懐かしき思い出がよみがえってきます。大学でお世話になった先生方や大学生活をともにした仲間とお会いしたくなる今日この頃です（年のせいでしょうか?）。ぜひ、これを見ている同級生のみなさん、どこかでお会いして思い出話を咲かせましょう。

平成4(1992)年 林学科卒  
中村健太郎

(住友林業 森林・緑化研究センター)

1966年、横浜生まれ。1992年に宇都宮大学農学部林学科卒業、1994年に東京農工大学大学院農学研究科林産学専攻修了後、住友林業株式会社に入社し、研究開発や環境コンサルティングに従事しています。宇都宮大学農学部には、樹木のバイオテクノロジーに関する研究を行いたかったので進学いたしました。

大学時代は、とにかく良く食べ、良く呑み、良く遊び、良く学んだ(?)記憶しかありませんが、沢山の友人ができ、とても楽しい時間を過ごしました。特に、自分の知っていたこと(環境問題やバイオテク)を好きなだけ勉強できましたし、何よりも妻と出会うこともできました。研究対象が生き物(植物)で、実験を始めると中断することができなかったので、研究室に寝泊まりすることも多かった



卒業(入社)直後(1994年インドネシア・カリマンタン島のジャングルの中の事務所にて)と住友林業(株)森林・緑化研究センターで研究センター長を務める現在の中村様:中村様よりご提供

ですが、それも楽しい思い出の一つです。大学生時代に印象に残っていることといえば、学食です。朝昼兼用で食べていましたが、麺類+定食で1,000円を超え、2つのトレーを持って学食内を歩いていました。授業では、専門の授業が楽しかったのは言うまでもありませんが、教養で受けていた哲学の授業が印象に残っています。デカルトについて、レポートや試験で持論を展開したところ、単位を中々貰えませんでした。最後に先生から「よく勉強していましたね」という言葉を頂けたのが、とても嬉しかったです。それから、宇大に入学して、「しもつかれ」を生まれて初めて食べましたが、衝撃でした(笑)

私はラッキーなことに、卒論、修論の内容をそのまま仕事として続けることができたので、大学時代に教えて頂いたこと、そして学んだことが役に立っています。そして何よりも、指導教官の吉澤先生、横田先生に、原稿なしでプレゼンすること、英語でコミュニケーションできるようすることを徹底的にご指導頂いたお陰で、社会人になってからもプレゼンやコミュニケーションで苦労することがありませんでした。

卒業後も共同研究等でご指導、ご協力頂き、大変感謝しております。今後は、微力ではありますが、宇大の更なる発展と後輩の育成に少しでもお役に立てればと思います。

平成5(1993)年3月 農学科卒  
奥山 清市

(市立伊丹ミュージアム)

宇都宮大学農学部に入社したのは、昭和から平成に元号がかわった1989年の4月です。今だから白状しますが、数ある大学の中から宇大を選んだのは、「宇都宮」という名前の響きがなんとなく気に入ったという安直な理由だったのですが、その直感は大正解でだからこそ今の自分があるのだと思っています。宇大の魅力はいろいろですが、私的には「ちょうど良い」という点に尽きると考えています。まず、大学の規模が大き過ぎずちょうど良いし、都会と田舎の良いところ取りのトカイナな環境がとても具合が良い。青春18切符で東京の博物館や美術館の展覧会日帰り鑑賞も余裕だったし、バイクで講義前に日光方面の往復ツーリングなんてことも可能でした。またピリピリ&ガツガツしていない鷹揚な学生気質も私の肌に合っており、仲間や友人との出会いにも恵まれ実に楽しい4年間でした。

そんな学生生活で、私が最も影響を受けたのはやはり応用昆虫学研究室です。稲泉先生、高橋先生、香川先生、そして院生や4年生の先輩方から学び吸収したことは、今の自分の核となっています。研究室に入り浸って飲んで遊んで採集に明け暮れた日々ではありましたが、講義では学べないたくさんのお話を教えていただきました。印象深い思い出がひとつあります。研究室に入ったばかりの頃、先生や先輩方は昆虫だけでなく植物や動物にも詳しいことに驚き、そして「昆虫を知るには、昆虫だけ見ては駄目」





市立伊丹ミュージアムで館長を務める現在の奥山様：奥山様よりご提供

学生時代の奥山様。平成5(1993)年頃の研究室対抗スポーツ大会



ということ学びました。その教えに従い私も虫だけでなく身近な自然にも興味を持つようになった結果、アパートと大学の間の往復が徐々に楽しく感じるようになりました。飛ぶ蝶や蛾や蜂を目で追い、葉上のイモムシや甲虫たちを探し、葉の形や樹形から植物の名前を学び、様々な花の美しさや香りを楽しみつつ、季節の変化を感じることができるようになってきたからです。不思議なことに、1～3年時も同じ道を同じ時期に通ったはずなのに、何も印象や記憶に残ってないのです。冬の繭梅、春の沈丁花、初夏の梔子、秋の金木犀の鮮烈な香りですら、当時の私はまったく気づかず通り過ぎていた事に気づき愕然としました。

宇大を卒業後、私は北海道大学大学院農学研究科に進学し、1995年に兵庫県伊丹市にある昆虫の博物館、伊丹市昆虫館に就職しました。そして2012年から2023年2月まで同館館長を勤め、2023年4月からは昆虫から離れ美術・工芸・俳諧・歴史をテーマとする市立伊丹ミュージアムの館長を勤めています。我ながら面白い経歴だと思いますが、これは人生の岐路で自らの直感を信じ、縁を大切にされた必然的な結果でもあるのです。「直感」と「縁」の大切さを教えてくれた宇大には、心から感謝しています。博物館に勤めようと思った原点も、かつての自分のように「気づかない」人に自然の魅力を伝えたいと願ったことがスタートだったのですから。

#### 平成9(1997)年 農業経済学科卒

皆川 治  
(鶴岡市長)

平成の米騒動と言われた年、平成5(1993)年に農学部農業経済学科の門をたたいた。



東北芸術工科大学監修のもと、元旅館をリノベーションした鶴岡市立農業経営者育成学校 (SEADS)：皆川様よりご提供

バブルは崩壊し、就職氷河期の世代などとも言われているが、その実感は乏しかった。農業という自然環境に働きかけて、現物を得る産業に向き合ってきたためか、証券や土地の値段に翻弄されるバブルへの関心も薄かったし、どこか胡散臭いと思っていた。友人たちがタイ米を論評しているのを聞きながら、日本の米のありがたさと政策の矛盾を思った。

こういう進路もあるぞ、と水本忠武先生に教えていただき、平成9(1997)年に農林水産省に入省、農地法の所管課に配属となった。食料・農業・農村基本法の制定に向かっていく重要な時期であり、株式会社による農地取得を巡る議論も焦点の一つとなっていた。宇佐美繁先生の地代や農民層分解の講義が思い出された。卒業式の時だったか、「庄内は一端離れても人が戻る地域なんだよ」との会話が記憶に残った。

庄内平野の農家出身だったこともあるが、真岡市の附属農場やキュウリ農家調査の経験が、農家の皆さんとコミュニケーションを取る際の基礎となった。農家調査は福島県鏡石町で泊まり込みで行われ、その際県庁に出向していたのは、その後食料産業局で上司となった櫻庭英悦さんだった。

平成26(2014)年に山形県鶴岡市にUターンした。農業を継ごうと思っていたのだが、経験のある行政分野の方が故郷のお役に立てるのではと一念発起。平成29(2017)年の市長選挙で初当選、鶴岡市立農業経営者育成学校 (SEADS) による農業人材の育成など2期目の市政運営に奔走している。応援弁士として駆けつけてくれた沖縄出身の水本先生、その奥様は鶴岡市の旧温海町の出身。教育学部卒の妻との結婚式の仲人でもお世話になった。

平成から令和へ。ウクライナでの戦争もあり、食品価格が上がり、肥料など農業資材価格も高騰し、再び、食料安全保障への注目が集まっている。農家の地域での円滑な合意形成と農民主権をいかに実現するか、競争条件が不利な中山間地の農地をいかに守るのか等々、課題は山積している。多様な農業が共存し、農村の多面的な機能を発揮させる地域政策と、経営者を育てる経済政策が相乗効果を発揮する農政が期待されるが、東京と地方の距離は未だ遠い様だ。四半世紀ぶりの基本法改正、そして憲法改正が必要なのであれば生きていく上で欠かせない食料安保をこそ。マクロとミクロの視点から、高等農林の伝統を引き継ぐ宇大からの提言、実践を期待したい。

平成16(2004)年 農業経済学科卒

井上真梨子 (旧姓：高久)

100周年、おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

2004年農業経済卒の井上真梨子 (旧姓：高久) と申します。卒業後は、東京のIT企業でSEに従事後、監査法人でコンサルタントを勤め、結婚・出産。その後、独立し夫婦でカフェを営んでいたある日、実家 (農家) の父が倒れ、後継ぎ不在になった田んぼを引継ぐために、家族で那須へ戻り、2018年に就農。現在は「稲作本店」というお米専門ブランドの女性代表として、「栽培」と「販売」両面から稲作の未来を創ろうと活動。直近では、農水省&内閣官房主催の「R4ディスカバー農山漁村の宝アワード」にて「特別賞」を受賞しました。

私が農経に進学したのは、中高生の頃、田畑で必死に働く両親の姿を見て、何とかできないかと考えたためでした。入学当時、ITが急成長する時代で農業に活用できないかを考えていました。また、ゼミでは地元産品の利用について調べた際、農業地的那須でさえ、地産地消が進まない状況に衝撃を受け、課題に直面しました。「問題だらけの農業に、未来はあるのか」先生や仲間と朝まで議論した思い出が今の私の原点です。

しかし、卒業時の私は農業に入る自信がなく東京へ。両親を遠くから見て「いつかは継がねば…」そんな思いはありながら15年。父が倒れ、ついに実態に直面します。就農して最初の年、実際の田んぼを前に感じた、厳しい稲作の現実。悔しくて、はがゆくて、両親とたくさんぶつかり、いっそのこと辞めてしまおうかと夫婦で涙したことも。それでも宇大を出て東京を見てきた人間が、田舎に戻り農業をするという意義や責任を感じ「ここでやり残したくない」と思い返し、そこから「どうしたら農業に光を当てら



現在の井上様と、経営している「稲作本店」(「農業白書」にもその取組が記載されています)：井上様よりご提供

れるか」真剣に考え行動していくことになりました。

在学中に考えていた「ITの活用」と「地産地消」。これを手がかりに、SNSやクラウドファンディングを活用して、現場のリアルを発信し、「つくり手と食べ手がつながる農業」への転換をはかりました。そこから人と人との「対話」や「交流」が生まれて、新商品や取引先の開拓、EC展開など徐々に光が見えてきました。私は「生産者」「消費者」という垣根ではなく、未来の風景や食卓がどうなっていて欲しいかをみんなで一緒に考えていけたら、農の未来は決して暗いものではないと思っています。

宇大の理念は「人類の福祉の向上と世界平和に貢献すること」だそうです。人口100億人・食糧危機がささやかれる時代に、あるべき農業の姿とは。未来の子どもたちに日本の素晴らしさをどう伝えていくか。私も宇大の卒業生として「希望」の一助となれるよう、ニッポンの原風景を未来へつないでいきたいと思います。

最後となりますが、宇都宮大学農学部への更なる発展と卒業生の皆様のご多幸を祈念いたしまして、私からの言葉とさせていただきます。ありがとうございます。

平成23(2011)年 林科学科卒

矢部 瞳 (旧姓：阿久津)

2011年に宇都宮大学農学部森林科学科を卒業いたしました、矢部瞳 (旧姓阿久津) と申します。大学卒業後は那須でホテルを経営する「株式会社二期リゾート」に入社して、「アートビオトープ那須」や「二期倶楽部」などのホテル専属自然ガイド「森のコンシェルジュ」として働いていました。3年後に、趣味であったアイリッシュハーブを本格的に学ぶため、アイルランドへ渡り1年間過ごしました。帰国後は進路に迷って数年フラフラしていましたが、自然ガイドのできるハーブ奏者「森のハーブ弾き」で生きていくと決心し2017年に起業しました。その後、栃木県民の森インタープリターとのダブルワークなどを経て、宇都宮大学大学院地域創生科学研究科社会デザイン科学専攻コミュニティデザインプログラムに進学し、「人とヤマとの関係性」をテーマに研究を行いました。現在は国産材で製作したハーブ「森の竖琴」の企画・販売・演奏活動を中心に、人と自然のご縁をつむぐ「株式会社つむぎ」を経営しております。

宇都宮大学農学部森林科学科に進学した理由は、森林の分野から環境問題の解決に寄与することが中学時代からの夢だったからです。自宅から通学できることと、演習林での実習が多いところにも惹かれました。大学時代は本当に実習が多く、森林科学科を志していたながら、高校時代まであまり山で遊ぶ経験をしてこなかった自分にとっては、大変良い経験になりました。大量の新聞紙に樹木の枝葉を挟んで標本を作製した樹木学実習も、岩だらけの急斜面を半泣きになりながら測量した砂防実習も今はいい思い出です。私が所属していた森林生態学・育林学研究室は先輩方も先生も大変面倒見のよい研究室で、卒業論文提出直前は





自然ガイドのできるハーブ奏者「森のハーブ弾き」として活躍している矢部様：矢部様よりご提供

先輩方からリポビタミンDやカップラーメンなどの差し入れを頂きつつ、毎日夜遅くまで研究室で発表の練習や論文の修正をしたことが印象的でした。

私は幸い、卒業後も森林関係の業界で活動しています。自然ガイドをするときや、自社で企画販売している国産材ハーブの説明をする際など、仕事の上で大学時代に学んだ森林や木材の知識が役に立っています。森林科学科のOB、OGと出会うことも多く、同窓生の皆様の活躍を感じています。

現在の仕事柄、小中学校や高校で演奏や講演をする機会があるのですが、私が宇都宮大学農学部森林科学科を卒業していることを聞いた高校生が実際に進学したという話を聞いて、自分が人の人生に影響を与えていることに身の引き締まる思いがしました。これからも同窓生の皆様とともに、日本の森林が良い方向に向かうよう、日々活動していきたいと思います。

### 平成27(2015)年 生物生産科学科動物生産学コース卒 荒川 友紀

(那須どうぶつ王国)

私は2015年に宇都宮大学農学部生物生産科学科動物生産学コースを卒業した。卒業後、栃木県那須町にある那須どうぶつ王国という動物園で、飼育員として毎日動物たちの世話やトレーニングをしている。

私が宇都宮大学に進学しようと決めたのは、高校三年生の時のオープンキャンパスがきっかけだった。それまでは、「動物が好きだから、動物のことが学べる学校がいいなぁ」と、フワっとしたビジョンで進学先を探していた。そんな中出会ったのが杉田昭栄先生の“カラスの授業”。その授業は、カラスの知能や音声コミュニケーションなどを面白く学べる内容で、私は心を射抜かれた。「自分は動物が好きといっているわりに、こんなに身近な野生動物のことも何にも分からないのか。カラスって奥が深くて面白い！杉田先生のもとでもっとカラスを知りたい！」と目標が決まった瞬間だった。

大学4年生、機能形態学研究室で、念願のカラス漬けの1年間が始まった。卒業論文のテーマは何にしようか…。



那須どうぶつ王国で飼育員をしている現在の荒川様と、担当しているニホンライチョウ（ツシマヤマメコやニホンカモシカといった日本の保全対象種も担当しています）：荒川様よりご提供

私はカラスを守るために“カラスの体調不良のサインを見つける”ことにした。加速度ロガーという体の動きを記録できる機械を背負子に入れてカラスに背負わせ、週に1回採血を実施。血液の値と行動の相関性を見つける為、ロガーのデータとにらめっこをしながら目視での観察も行い、カラスのことで頭がいっぱいな日々を送った。1年間相棒として一緒に過ごしたハシブトガラス3羽、いまだに名前を覚えている。大二郎、中太郎、小太郎。きみたちのおかげでいまがある、ありがとう。この研究内容を2014年に開催されたカラスシンポジウムでも発表させて頂いたこともいい思い出だ。

卒業後、動物園の飼育員となり、本州中部山岳地帯に生息する絶滅危惧種、ニホンライチョウの飼育繁殖を任せられ、環境省や国内の動物園、研究機関と協力しライチョウの野生復帰事業に取り組んだ。2021年に中央アルプスから野生のライチョウ家族を7羽受け入れ、動物園で繁殖させ、2022年、19羽に増やして故郷の山へ返した。日本の動物園において、固有絶滅危惧種の生息域外からの野生復帰に成功したのは初である。ライチョウを飼育する上で大切なことは、異変をすぐ見つけ対処することだ。物言わぬ動物の体調の変化を見つけるのは非常に難しい。しかしそれには間違いなく、ひたすら行動を観察し日々の変化を見極めようとカラスと向き合った宇都宮大学でのあの経験が活かされていた。宇都宮大学での生活は、動物と生きる私の基盤となっている。「カラスの体調が悪くなったらすぐ助けたいので、そんな研究をやりたいです」と先生に相談した時のことを今でも昨日のことに覚えている。先生方は私の意思を尊重し後押ししてくれた。濃い4年間を支えてくれた先生方、友人たち、周りの方々に心から感謝している。本当にありがとうございます。これからもこの経験を活かし、命と向き合っていきたい。

### 平成27(2015)年 生物生産科学科応用生物学コース卒 藤本 正太

(高崎健康福祉大学)

2015年に宇都宮大学農学部生物生産科学科応用生物学コースを卒業いたしました。卒業後は群馬県の高崎健康福

社大学農学部で助教として働いております。高校の頃に、これからはバイオの時代だ、という趣旨の指導をいただき、農学部に興味を持ちました。幅広い分野の研究が行われていること、附属農場が大きいこと、宇都宮市の利便性などに魅力を感じ、宇都宮大学の農学部に進学いたしました。

大学生活で一番に思い出すのは、やはり研究室のことで、私は博士課程まで進学しましたので、研究室にも7年ほどお世話になりました。カイコに感染するウイルスの研究をしており、未解析のウイルス株の解析やウイルスの遺伝子の働きなどを研究していました。ウイルスの感染の経過を追うときには、実験が早朝や夜遅くになることもあり大変でしたが、それも含めて非常に充実した研究室生活でした。研究室に関する思い出は、日常的な実験やディスカッションに加えて、個性的な先輩や後輩、ラボのイベントや小旅行など、ここには書ききれないほどたくさんあります。特に印象に残っている食は、研究室の同級生が懇親会に持ってきた“タガメ”入りのお酒です。焼酎にタガメをつけておくとラフランスの香りがする、とのことで同級生が自作のタガメ酒を研究室に持ってきてくれたことがあり、確かにラフランスのような爽やかな香りがして驚きました。味はあまり美味しくなかったですが。また、授業で印象深かったのは、やはり実験・実習です。応用生物学コースの実験では、昆虫や植物のウイルスの観察と検出、アブラムシの飼育、植物胚の切片の作成など、かなり突っ込んだ内容を体験しました。実習では農場や演習林での日常的な実習の他に、泊りがけの実習がいくつかあり、同級生との懇親会や腕相撲大会など、多くの印象に残る思い出があります。

現在は大学に勤務していますので、大学での経験がそのまま活かされていると感じています。学生時代は何も考えていなかったのですが、いざ自分が教員になってみると、当



高崎健康福祉大学農学部で助教を務めている現在の藤本様。研究室の学生に実験の説明をしている様子：藤本様よりご提供



時の先生方がいかに講義や研究室の運営を工夫されていたのかが分かってきました。学生時代のことを思い出し講義の資料や方法などを試行錯誤したおかげか、最近では、講義が分かりやすい、などのコメントをもらうこともあり、うれしく思っています。

平成31(2019)年 応用生命化学科卒

和田 凪左

(TOPPANエッジ株式会社)

2019年に宇都宮大学農学部応用生命化学科を卒業、2021年に地域創生科学研究科農芸化学プログラムを修了しました。卒業後はTOPPANエッジ株式会社(旧トッパン・フォームズ株式会社)の中央研究所にて研究開発に従事しております。高校生の時にSSHの活動で、応用生命化学科の先生方にお世話になったことがきっかけです。大学の模擬授業のほかに、蕪山先生の研究室にお邪魔し、大学での研究を体験させていただき、学習内容が面白いと感じました。もともと化学が好きで、『生物・化学・環境』のいずれか1つでも興味があるならおいで!という学科説明で応用生命化学科に進学しようと決めました。

研究室は金野先生の高分子材料化学研究室でした。羽生先生、金野先生をはじめ、当時博士課程の田中先輩や菊地先輩に研究室での生活・勉強共にお世話になりました。先輩にたくさんアドバイスをいただき、実験やゼミを頑張ったことが印象に残っています。また、研究室で忘年会や先生のお誕生日パーティーをしたり、学会終わりにみんなで観光したり、趣味が合うメンバーで遊びに行ったり、勉強以外にも楽しく過ごせたことも同じくらい印象に残っています。

現在勤めているTOPPANエッジ(株)は、修士1年の時から共同研究に参加させていただいた縁で入社しました。研究室で学んだことがそのまま仕事になるとは思っていなかったのですが、このような機会を与えてくださった金野先生に感謝しています。現在も共同研究しており、研究室の皆さんと関わる機会がありますが、学生の時とまた違う立場で大学にお邪魔していることに不思議な感覚になります。お世話になった研究室と今もつながりがあることをうれしく思いますし、今までの研究成果を製品として残せるように頑張りたいと思います。



平成31(2019)年3月の卒業式に研究室メンバーと記念写真：和田様よりご提供



## 退職のご挨拶



生農業経済学科・農業史

大栗 行昭

1983年5月に助手として農学部採用され3月まで、39年11か月お世話になりました。採用時は修士課程を終了したばかりでしたから、文字どおり農学部にて育てていただきました。80年代・90年代当時の先生方、事務官の方々、学生の皆さまのことが懐かしく思い出されます。また、折々に同窓の皆さまからご指導を頂いたことも忘れられません。厚くお礼申し上げます。

農業史の講義を中心に教育に当たりましたが、興味を引くようなものではなかったでしょう。加えて恩師・笠井恭悦先生のような度量の大きさは持ち合わせておらず、性格の未熟さゆえに卒業生の皆さまに色々とお迷惑をお掛けしましたこと、お詫び申し上げます。

取り組めた研究テーマは大きく2つでした。1つは日本地主制の展開と構造に関わる研究です。戦後農地改革で解体された日本地主制の「生涯」を、小作争議展開の地域性と在村中小地主経営の展開との2つの観点で跡付けたもので、通説とされた戦前期における日本地主制の後退は、地域性と階層性（西日本と大地主では顕著）を伴う、限定的なものであったと論じました。もう1つは、近代日本のいえとむらにとって、土地を買い戻すことの本質は何か、それがどう展開したかを問う研究です。明治期、地主が土地を買い入れる際、後で買い戻せるとする契約が各地で確認できたことが発端となりました。売り渡した土地を買い戻す契約が、利子を取ることを目的とした貸借である売渡担保と、買戻し特約を付けた売買の二様であったことに、ようやくたどり着きました（近刊論文「近代日本の農民・農村と土地の買戻し」）。40年間で明らかにできた範囲は広くありません。しかし、各地の農業・農村の問題の多様性を過去の資料や文献により認識できて、成果が文字として残る仕事に就けたことに感謝するばかりです。

同窓の皆さまのご健康とご活躍を心からお祈り申し上げます。退職のごあいさつと致します。

## 新任教員のご挨拶



福田 竜一

所属・職種：農学部 農業経済学科  
准教授

専門：農産物貿易論・農村開発論

農業経済学科を卒業後、農林水産省農業総合研究所（現・農林水産政策研究所）に入所し、以来、一貫して農業・農村の社会科学的研究に取り組んでまいりました。専門分野は農産物貿易論と農村開発論です。前者の研究では、2009年に東北大学大学院農学研究科にて博士号（農学）を取得しました。

研究当時は、2001年に開始されたWTO（世界貿易機関）のドーハ・ラウンドが、先進国と途上国との対立の先鋭化によって交渉妥結の見通しが立たない状況にありました。そうした中、アメリカやEUなど主要各国は交渉の軸をFTA（自由貿易協定）に移していました。FTAでは、締結国間の関税を原則完全撤廃するルールがあるため、農産物輸出大国でありながら自国農業を手厚く保護するアメリカやEUは、FTA推進と農業保護との両立が課題でした。研究では、主要各国のFTA交渉を対象にその交渉過程において農産物貿易問題がいかに発生し、そして調整されたのかをゲーム理論や一般均衡モデルを用いて分析し、FTA締結の成功要因とその限界を明らかにしました。

他方、農村開発論の研究では、我が国の農山村の持続的発展に向けた課題に取り組みました。急激な人口減少と著しい高齢化の進む農山村では、小中学校、商店や金融機関、病院や診療所といった重要な生活インフラが相次いで撤退しており、集落の住民同士による共同作業や相互扶助機能が失われつつあるなど、地域社会の将来の存続が危ぶまれています。そのような中、住民自ら地域課題の解決に取り組む「地域運営組織」を設立する事例がいま全国的に増加しています。研究では、全国の地域運営組織の現地調査を実施し、それら取組がいかなる理由で成功しているのか、またどのような政策的支援が効果的かの解明などに取り組ましました。

宇都宮大学では、農業・農村の直面する課題の解決に向けた研究に、これまで以上に一生懸命取り組んでまいります。皆様のご指導とご鞭撻をよろしく願いいたします。

追

悼

菅野長右工門先生を偲ぶ



去る令和4年9月15日に菅野長右工門先生がご逝去されました。昭和15年12月14日、福島県生まれ、享年83でした。

菅野先生は、昭和44年3月東京大学大学院博士課程／畜産学専攻を修了、東京大学助手、宇都宮大学助教授（昭和53年4月）を経て昭和58年12月に教授に就任、平成10年4月から平成14年3月まで農学部長、平成17年12月には学長に就任され、平成21年3月に退職されるまで宇都宮大学の運営・発展に尽力されました。

農学部長としては遺伝子実験施設の実現、環境調節実験棟新設、学長としては、全国初の「宇都宮大学峰ヶ丘地域貢献ファンド」の設立等々の功績を残されています。

先生は一貫して食品・食材としての観点から乳成分の研究に携わってこられ、特に乳脂肪球皮膜関連の業績は国内外で高く評価されています。これらの研究を通して、留学

生を含め数多くの人材を輩出され、本学ならびに東京農工大学連合農学研究科の教育・研究の発展に寄与されました。平成2年には、優れた乳化能を有する乳タンパク質ラクトフォリンの発見により日本畜産学会賞を受賞されています。

このように、永年にわたる教育・研究、大学運営の功績により平成28年秋の叙勲において瑞宝中級章受章の栄誉に浴されました。

大学3年（昭和51年）の学生実験で、“やり直し”と言われたのが私と菅野先生との最初の接点です。先生が宇都宮大学に移られて10年後、助教授を拝命してから17年間、食品生化学研究室で一緒させていただくことになりました。学会やスキー（カナダ仕込みのなかなか腕前でした）、尾瀬合宿など数々の場面が思い起こされますが、今でも鼓膜に焼き付いているのは、就任後まもなく大きなプロジェクトが舞い込んできた時に言われた、“石橋を叩いても渡らないタイプだな”の一言です。

橋がなければ自分で架けてでも渡ろうとされた長右工門先生、安らかにお眠りください。ご冥福をお祈りいたします。  
（応用生命化学科 名誉教授 東 徳洋）



支部総会（1支部）

全国の支部活動のご紹介です。同窓生の皆様には各県支部に入会頂き、同窓生のつながりを深めて頂きたいと思えます。お問い合わせは、P25の支部長一覧をご参照下さい。支部総会開催の際は、事務局までご連絡ください。

IBARAKI

茨城県支部総会

令和5年7月1日(土)、水戸市内の「ホテルレイクビュー水戸」において33名の出席のもと、茨城県支部総会が盛大に開催されました。

当日は、菊池正蔵支部長（農S46卒）の挨拶に始まり、来賓として同窓会本部から出席いただいた生物資源科学科教授の福井えみ子先生より、総会開催に当たってお祝いの言葉をいただくとともに、コロナ禍での宇都宮大学の近況報告や農学部100周年記念事業等についてご紹介いただきました。

総会ではスムーズな議事進行により、令和4年度収支決算、規約の改正、役員改選についての報告が承認されました。役員改選では、長年にわたり支部長を務めてきた菊池正蔵支部長が退任し、新支部長に平林英男氏（農S51卒）が選任され、また、副支部長についても中島敏之氏（農経S50卒）に代わり小船恵二氏（畜産S57卒）が選任されました。

懇親会は、川崎昇三先輩（農S42卒）の乾杯で始まり、



学生時代の思い出話やお互いの近況等で話が弾み、大変盛り上がりました。懇親会は瞬間に過ぎ、最後は新副支部長の小船氏の挨拶で閉会となりました。

令和元年度以降、コロナ禍で開催出来なかった総会ですが、約4年ぶりに多くの方にご出席いただき、盛大に開催することが出来ました。

最後にご来賓としてご出席いただきました福井先生、並びに同窓会本部事務局に御礼を申し上げます。

引き続きよろしく願いいたします。

（森林H27卒 庄司 直人）



## 学生支援

## International Union of Forest Research Organisations All Division 5 2023 Conference に参加して

連合農学研究科 環境資源共生科学専攻  
木材材料学研究室 博士課程3年 根津 郁実

私は6月4日から8日にかけて、オーストラリアのケアンズで開催された IUFRO-DIV 5 2023 Conference に参加してきました。この大会は、4～5年おきに開催され、Forest Products（林産物）に関する様々な研究分野から研究者が集まります。

私は、“Evaluation of xylem maturation manner by radial variation modeling of wood properties in fast-growing tree species in Japan（日本に生育する早生樹における木材性質の半径方向変動モデリングによる木部成熟様式の推定）”というタイトルで、口頭発表しました。近年、国内でも注目を集めている早生樹の植林や木材利用を促進するためには、早生樹において、木部の質的变化がどのように生じるのか、また、樹幹サイズの変化とどのような関係があるのか明らかにすることが不可欠です。本研究では、ユリノキおよびキリを対象に、成長形質と木材性質の経時変化のモデリングから推定した各樹種の木部成熟様式について発表しました。

学会中は、とにかく色々な発表を聞いて、たくさんの人と話そうと思って参加しました。国や所属機関ごとの、研究背景、研究手法、研究内容のトレンドなどの違いを知ることができ、非常に興味深かったです。また、自分の研究室メンバーにも早く共有したい！と思うような研究内容もたくさんありました。

ケアンズはカフェも有名ですが、ブルワリーもたくさんあり、学会後はブルワリーに行きました。ブルワリーは学会会場から近かったため、様々な国からの他の学会参加者も多数来ており、ここでも色々なお話をすることができました。ある人には、学会中の発表内容について質問しようとしたのですが、「今はまじめな話はしない」と言われ、代わりにドイツビールについて教えていただきました（質問内容については、別日にお話できました）。学会も学会外も、充実した楽しい5日間でした。最後になりますが、この学会に参加するにあたり、ご支援いただいた峰ヶ丘同窓会に感謝いたします。本当にありがとうございました。



コロナ禍  
学生支援  
第4弾

## 生協コラボ「200円ハラル牛丼」 メニュー提供事業について

生協コラボ「100円カレー」メニュー提供が好評だったとの意見を受け、第4弾と称し、今年の1月30日～2月1日の3日間、大学生協とコラボレーションし、「200円ハラル牛丼」および「ご飯ものメニュー 30円ポイントバック」の提供事業を行いました。

附属農場の「ゆうだい21」を約900kg購入し、今回は3日間限定で行いました。新米であり、限定100食であったことから、連日売切れとなり好評でした。



## クラス会（4クラス会）

全国のクラス会のご紹介です。毎年たくさんのクラス会が催され、ご寄稿いただいています。紙面の都合上、写真は1枚、原稿は800字までとさせていただきます。何卒ご協力のほどお願い致します。

### ① 畜産科クラス会 （昭和43年3月卒業）

創立100周年誠にありがとうございます。クラス会を行ったので報告をいたします。

世の中新型コロナを中心としたお騒がせが長く続き、人々の行動が制約されてきました。特に集会や宿泊等の人の集まりが危険とされ、観光業界などは大変でした。そのため毎年開催を続けてきた我々昭和43年卒業の畜産科クラス会もやむなく3年中断してきました。そして今年思い切って群馬県の川原湯温泉「丸木屋」旅館において12月10日～11日で開催しました。健康上の理由で参加できない者が多く、結局23名中6名の参加者となりましたが決行しました。積もる話も沢山あり、また小原くんからクラスメイトの情報や宇大の近況などがもたらされて夜遅くまで盛り上がり、久しぶりの再会は喜びが最高潮に達し成功裏に終わりました。懇親会の写真をお送りしますのでよろしく願います。写真は左から片貝勝、関昌弘、佐藤隆、石崎忠道、川西直樹、小原貴の各氏です。会報への掲載を



よろしくお願い致します。

尚、この度同窓会長になられた宇田さんは学生時代管弦楽団と一緒に活動していたことがあり、昔が懐かしく思い出されました。どうぞ同窓会運営にご活躍ください。期待しております。

また、私事で恐縮ですが片貝勝は昨年秋の瑞宝章受章を受章いたしましたのでご報告申し上げます。

（文責：片貝 勝）

### ② 燦久会・3年半ぶりに米沢で集う （昭和39年3月卒業）

新型コロナウイルス禍が落ち着いたのを見計らい、令和5年6月22日に60年前に農業経済学科を出た面々11人が米沢に集った。昭和39年に卒業した者一人ひとりがつまでも光り輝くようにと燦久会と称し、平成12年【2000年】以来20年間休むことなく、少ない時でも4割方の出席を得て続けられてきた。それが、突然のCOVID=19の出現で、「未来も移動の自由も議論も奪う」（カミュ著『ペスト』岩波文庫版60頁）状況に陥り、ここ3年半の間、開催を見合わせ、この度ようやく21回目の開催となった。

仙台の佐々木が山形の私の車に同乗し一緒に米沢に向かう、皆の集合場所としていた米沢駅西口の駐車場に着いたその時、さいたま市の鈴木正が車で着く。3人で駅に向かい待つ間もなく、つばさ129号が到着、鈴木吉郎、小林、永井、熊倉、森山、篠塚、関谷、しばらくして成瀬が現れ、参加者全員が揃う。マスクをしている者はごく僅か、互いに握手を交わし再開を喜び合う。

まずは移動し、上杉伯爵邸で昼食。今の伯爵邸は、大正14年に中條精一郎により設計され再建されたもの。その一室で、米沢牛付きの「花の膳」とその日の朝山形の直売所で調達した、さくらんぼ「紅王」20粒を食す。

このあと、伊藤忠太設計の上杉神社や鷹山精神を表す「民の父母」、「為せば成る」の碑等米沢城址を巡り、伝国の杜（米沢市博物館）を観たのち、東光の酒蔵、そして上杉家



廟所へ行く。ここでも城址とは別のグループの地元ガイドにお世話になるも、同じく、先人への敬愛、郷土への誇りが感じられる説明で、心に残った。



宿の白布高湯温泉東屋ではゆっくり温泉につかったのち、マスクなしで会食。去る3月に逝去された二瓶君のご冥福を祈り皆で黙禱を捧げる。しばらくして恒例の各人からの話に。これが際限なく会場を移し、6時間余、翌日まで渡り続いた。学生時代の他愛のない思い出話も混じるが、権威主義がはびこる国際情勢の話やら母校への愛を込めた思いや期待、励んでいる農作業の苦勞話、これまで闘ってきた自身の病歴、ベターハーフのケア、また高齢社会真っ



ただ中の地域でリーダー役を担わざるを得ない実情など直面している深刻な話まで実に多様な内容に及んだ。

翌朝9時に宿を出、初めてという人が多かったさくらんぼ狩りを楽しみ、産業振興にも寄与した直江石堤、鷹山終生の師細井平洲を出迎えたといわれる普門院を訪れる。そして笹野「ならで」でそばとかいもちをとり、次回は関東で再開することを誓い合い米沢駅で2時前に解散した。

久方ぶりに旧交を温め、米沢の人、自然、歴史文化に触れ、何か張り合いや力になるものを感じた思い出深い旅となったのであれば幸いである。いつまでも輝き光っていてほしい燦久会である。

最後に、このたび参加が叶わなかった、ご家族を含め多くの方々からメッセージやお心遣いを頂きました。深く感謝申し上げます。(文責：横山)

### 3 農学科第20回生群馬県伊香保に集う クラス会 (昭和47年3月卒業)

これまで通常毎年開催してきた私たちのクラス会は、2019年10月に茨城県の筑波山で開催して以来、4年振りの開催となりました。

新型コロナの蔓延で延び延びになっていましたが、メンバーから催促が来るようになったことや、この伝染病の格付けが下がったことなどから、今回の幹事である群馬県のメンバーが集まり、コロナ感染のリスクを背負いながらの開催を決めました。

クラス会は、2023年5月22日(月)に、群馬県伊香保温泉の森秋旅館で開催しました。

時節柄や、毎年一つずつ年を重ねてきて体調不良のメンバーが出たりして、総勢18名と、これまでと比べるとちょっと少ない参加者となりました。

受付時間より早く到着した人は、伊香保名物の365段の石段を往復したり、メンバーとの会話を楽しんだり、開会前からクラス会が始まっていたようでした。

夜の懇親会は、乾杯で始まり、幹事長の歓迎挨拶、各メ



ンバーからの近況報告とお決まりの行事が終わると、その後はお開きまでゆっくりと久々の会話や飲み会が進みました。元気の残っている人たちは幹事部屋で夜中まで酒や会話を楽しみました。

翌日は、朝食後解散し、またの再会を誓いながら、それぞれのルートで観光したり帰宅したりということになりました。

次回のクラス会は栃木県が快く幹事を引き受けてくれ、宇都宮で開催される見込みです。

ぜひ多くのメンバーが参加出来ることを願っています。(文責：松井 剛)

### 4 林学科7回生 クラス会 (昭和34年3月卒業)

日 時：2022年11月3日(木曜日) 16時～

場 所：宇都宮市(ホテルニューイタヤ)

参加者：11名

母校を巣立って63年。その間に平成14年のカナダ旅行を含め、35回ほど宿泊旅行や作品展示会などの行事を行ってきた、我ら新林第7回卒の七林会である。

コロナ禍のため、最近の2年間は中断したものの、今年、令和4年の秋もまた宇都宮で楽しい誇らしい一夜を過ごすことができた。

翌朝は市役所の16階から眼下の宇都宮城址をはじめ、筑波山の方に広がる雄大な市街の展望を満喫し、市勢の発展ぶりに驚嘆した。

母校に移って森林学科の大久保達弘教授の懇切なご案内により、思い出深い校内の建物や施設を一巡したが、いずれも数十年間の発展ぶりに目覚ましく、感慨無量のものがあった。

母校の構内で、とりわけ印象深かったのは、旧講堂の一室に飾られた数々の写真に接したときである。旧校舎や寮舎、農場、新入生歓迎ファイヤーストームでの裸踊りなど、



どの1枚を見ても遠く過ぎ去った青春の思い出が詰まっていた。昔変わらぬフランス式庭園や、巨木と化した数々の樹木なども懐旧の念をかき立てた。

残念ながら令和4年をもって解散となった七林会ではあるが、残金は母校の3C基金に宛てることにし、手続きを済ませてから、後髪をひかれる思いで校門を後にした。

駅前では名物のギョウザ店に入り、昔はピーナッツバター塗りのコッペパンをよく食べたものなどと語り合いながら昼食を済ませ、来年また、農学部100年祭で会おうと、鬼がわらうような言葉を交わしながら、名残りおしさを振り切って、それぞれの帰路についた。(文責：館)



# 農学部 100周年 記念事業について

宇都宮大学農学部は、その前身である宇都宮高等農林学校が1922（大正11）年に設立されてから、2022年にお陰様で100年を迎えました。当初、2022年の100周年記念式典開催に向けて、農学部100周年記念準備委員会を中心に準備を進めておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて式典を1年延期し、2023（令和5）年11月18日（土）に開催することといたしました。ぜひ、100周年の喜びを同窓生の皆様と盛大に分かち合えるよう、峰ヶ丘同窓会と農学部が密接に連携しながら100周年記念事業に取り組んで参ります。

## 1. 記念式典・講演会・祝賀会

2023（令和5）年11月18日（土）に下記のように開催いたします。

記

### 〈記念式典・講演会〉

- ・日 時：2023年11月18日（土） 15：00～17：30（14：00から受付開始）
- ・開催場所：宇都宮ライトキューブ 3F中ホール（宇都宮市宮みらい1-2）
- ・講演者：「100周年を振り返り」 杉田 昭栄 名誉教授（生物資源科学科）  
「私の歩みと宇大農学部」 同窓生 計4名
- ・参加対象者：来賓、同窓生、学生、教職員（定員500名程度）
- ・参加費：無料
- ・その他：当日参加も受け付ける予定ですが、会場収容人数の定員がございますので、参加ご希望の方は、なるべく事前申込をお願いいたします。

### 〈祝賀会（懇親会）〉

- ・日 時：2023年11月18日（土） 18：00～20：00（17：00から受付開始）
- ・開催場所：ホテルマイステイズ宇都宮11階 グランドホール（宇都宮市東宿郷2-4-1）
- ・内容：立食パーティー（椅子も用意する予定です）
- ・参加対象者：来賓、同窓生、学生、教職員（定員280名）
- ・参加費：10,000円（当日、受付にてお支払いいただく予定です）
- ・その他：事前登録制といたします。参加ご希望の方は事前申込をお願いいたします。

### 〈開催内容、概要〉

J R宇都宮駅東口の宇都宮駅ライトキューブにて、記念式典＋記念講演会を開催いたします。「農学部の100年と未来への歩み」と題し、来賓として、同窓生である福島県伊達市長須田博行氏（昭和56年農学部卒業）、基調講演者として、杉田昭栄名誉教授をお招きしております。さらに、農学部の様々な年代・学科を卒業され、ご活躍の方々にもご登壇いただき、「私の歩みと宇大農学部」というテーマでご講演いただく予定です。同窓生の皆様に喜んでいただけるよう準備しておりますので、ぜひご出席いただけますと幸いです。

記念式典＋記念講演終了後、J R宇都宮駅東口の宇都宮ホテルマイステイズにて祝賀会（懇親会）を開催いたします。280名程度を上限とした事前参加登録制の立食パーティーとする予定で、皆様の親睦を図れたら思っています。もし立食は厳しいという方がいらっしゃいましたら、テーブル席もご用意いたしますので、ご相談ください。



記念式典＋記念講演を開催予定の宇都宮駅東口ライトキューブ（ライトキューブHPより転記）



尚、大学キャンパス内での100周年関連イベントはございませんが、同日に大学祭がキャンパス内で開催されている予定です。式典は夕方からですので、式典前にキャンパスにお立ち寄りいただくことも可能なスケジュールです。峰ヶ丘講堂内は見学できるように準備しております。

式典・講演会、および祝賀会に出席ご希望の方は、本誌の2ページ目を参考に、折り込みの返信用ハガキ、またはQRコードから、10月10日までに事前参加申し込みしていただきますよう、ご協力お願いいたします。追加の情報は農学部のホームページでお知らせいたします。

## 2. 創立百周年記念誌—同窓会報CD付き—〈同窓会—農学部共同制作〉

農学部創立100周年記念誌を作成しております。今回は、記念誌や記念アルバム作成に実績のある広告代理店（株式会社ブレイン）と契約し、読みやすく、懐かしい写真を多く盛り込んだ記念誌を目指し作成を進めています。

内容は、「写真で見る農学部100年の歩み」から始まり、「90年の歩みダイジェスト」、「近10年の歩み」、「農学部の資料（現任教員の研究室と専門分野、キャンパスマップ、農学棟の教室配置図、進路状況、近年の就職先、講義カリキュラム、卒業生数の推移、同窓生の所在県データなど）」から構成され



創立100周年記念誌：表紙



電子データ化した同窓時報。PDFデータをCDにし、記念誌に同封いたします。

### 1 1922（大正11）～1933（昭和8） 宇都宮高等農林学校の創立

#### 創立簡史

##### 西洋農法の導入に伴う高等農業教育の始まり

西洋農法の導入を進める明治政府は、北海道の開拓技術者養成を目的に1876（明治9）年に札幌農学校（現・北海道大学農学部の前身）を開校した。2年後には欧米の学理と技術の習得を目的とした駒場農学校（現・東京大学農学部の前身）を誕生させた。1899（明治32）年に実業学校令が施行され、東北振興を目標に盛岡高等農林学校が1902年（明治35）に創設された。翌03年に専門学校令が定められると同時に実業学校令も改正され、実業学校のうち高等教育を実施する教育機関を実業専門学校とした。これに基づく農林専門学校として、08年に日露戦争後の国運発展に伴い、南方富源開発の使命を帯びて鹿児島に第二高等農林学校（現・鹿児島大学農学部の前身）が設置された。

大正期に入ると中等教育の発展で進学者が増加し、高等教育学校に進みたいという国民の要望が高まった。臨時教育会議の答申でもこの社会情勢を鑑みて高等教育を拡充する方針が提呈され、実業専門学校の発展をみることとなる。

#### 1922（大正11）

##### 宇都宮高等農林学校の創設

明治期には盛岡、鹿児島、鹿島の2高等農林のほか、東京高等蚕糸（1896年蚕業講習所、1913年文部省移管）、京都高等蚕糸（1899年蚕業講習所、1913年文部省移管）、上田蚕糸専門学校（1910年創立）の3校が設立された。1918（大正7）年に成立した原内閣の中橋徳五郎文部大臣は第41回帝国議会の賛成を得て、翌19年度から24年度に至る6年間に高等教育機関の拡張を行うことになった。宇都宮高等農林学校はこの拡張計画の一環で、先述の5校に続く高等農林のナ



宇都宮高等農林学校創設を公表する1922年10月21日付文書

ンパースクールの一つ、「第八高等農林学校」として考えられた。ナンパースクールとは、高等学校を8校から25校へ、高等工業を8校から18校へ、高等農林・蚕糸を5校から10校へ、高等商業を5校から12校へ、などとする高等教育機関増設施策を反映したものである。従って宇都宮高等農林学校と同時に鳥取（1920）、三重（1921）、岐阜（1923）、宮崎（1924）も創立した。

宇都宮高等農林学校については、22（大正11）年10月21日、勅令第441号（文部省直轄諸学校官制中改正の件）をもって官制が公布された。同日勅令第442号による学校職員定員令の改正により、校長1名、教授5名、助教授2名、書記4名の定員が認められ、前年から創立委員を委嘱されていた元盛岡高

等農林学校校長佐藤義長が翌11月27日に校長に任ぜられた。

#### 1922（大正11）

##### 校地決定と学科設置

1922（大正11）年12月15日、文部省告示第577号で、校地は河内郡平石村（現・峰ヶ丘キャンパス）とされ、翌23年4月より授業開始となった。ついで文部省令第8号（23年2月14日）をもって宇都宮高等農林学校校規程が公布され、農学科、林学科、農政経済学科の3学科が置かれた。この3学科が置かれたのは、初代校長佐藤義長が、農業教育には幅広い農業指導者の育成が必要との構想を有していたことが大きい。

職員定員は、年次計画による学年進行に伴い、その後は勅令第229号（23年5月8日）で教授7名、助教授6名に改正され、勅令第123号（24年5月16日）により教授14名、助教授9名、書記5名に、また完成年度では勅令第216号（25年6月13日）をもって教授18名、助教授11名、書記6名に改められた。

#### 1923（大正12）

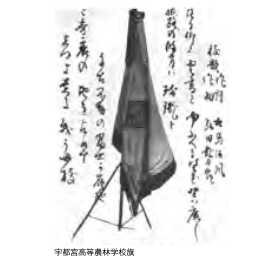
##### 第1回入学宣誓式挙行、3学科84名が入学

1922（大正11）年11月27日から事務取扱が始まり開校準備が進められた。翌23年2月10日に学生募集が公示、3月18日に入学試験が行われた。210名が志願、農学科34名、林学科20名、農政経済学科30名が合格し、4月16日に第1回入学宣誓式が挙行された。また同日を開校記念日と定めた（のちに官制公布の10月21日に改定）。翌5月に校友会が結成され、学術、運動、海外研究、娯楽、その他分野で活動した。校友会は戦時体制となって1940（昭和15）年11月に報国団が結成された際に解散した。

当初の校舎設備は実験室4棟、寄宿舎および同附属家屋4棟、生徒研究所兼雨天体操場だけで、実験室内に臨時教室を設けて授業を行った。23（大正12）年5月に敷地6万7952.22坪と実験室建物（1138.5坪）が文部省から引き渡された。開校初期は農場建設のため1年生が毎日午後1時に実験農場の築工をみた。植樹庭園は23年11月21日に「国民精神作興に関する



宇都宮高等農林学校制服



宇都宮高等農林学校旗

詔書」の捧読式後の記念事業として学生が造園に着手、本館玄関前のロータリーマツ・カエデの植え込み、本館南側の作庭を進めた。平石村、瑞穂野村の青年団の奉仕も得て26年秋に完成した。翌27（昭和2）年11月に庭園管理室と作業室、29年に護国栽培池、31年に鉄骨温室と簡易温室ができ、ブドウ

# 1 2011 (平成23) ~ 2017 (平成29) 東日本大震災の影響と学科・研究センターの再編

## 2011 (平成23) 年 東日本大震災の発生と本学の動き

2011 (平成23) 年3月11日午後2時46分頃、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生し宮城県北部で最大震度7、宇都宮市や真岡市など栃木県内5市町で震度6強を観測した。巨手、宮城、福島県を中心とした太平洋沿岸部に大津波が押し寄せ、翌12日には東京電力福島第一原子力発電所事故が発生。この東日本大震災による死者は1万5900名(震災関連死を除く)、行方不明者は2,523名(2022年3月1日時点、警察庁発表)となり、栃木県内でも4名が死亡、130名以上が負傷した。

宇都宮市内では負傷者9名、全壊9棟、半壊242棟、一部損壊1万9,385棟(2022年3月1日時点)の被害が出た。本学では附属図書館の蔵書の落下や機器の落下による破損、一部設備の破損はあったが、施設が全面的に耐震補強された後だったこともあり、大

**震災ボランティアに参加して  
農学部3年匿名(男性)**  
被災地に行ったボランティア活動に参加したのはまだ2回ですが、それ以外にも機密なものでした。作業をするにあたって現地の方とお話する機会があったのですが、その際私達を気遣い、時折差し入れをいただくなど、本当にありがたかったです。最後に、「ありがとうございます」の言葉をいただいたときには、これを返していかなければならないと強く思いました。そして、困難な状況にあっても強く優しくたくましく見られるを見て、自分も恥ずかしい生き方できないと思ったのです。【UNow】第26号2011年11月20日付P14より抜粋

規模な被害は出なかった。ただ春休み期間中であり、帰省先で被災した学生もいた。卒業式、入学式はそれぞれ中止されたが、授業は4月から通常通り行われた。被災学生に対しては全学的に入学料および授業料の免除等の措置が取られた。

峰ヶ丘同窓会会員では宮城県で2名、栃木県で1名が亡くなった。同窓会は4月13日に青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉、東京の各支部長に見舞状を送り、5月9日には特に被害が大きかった宮城、岩手、福島、青森、茨城5県在住の会員約1,000名に見舞状を送った。学生会員の中で自宅もしくは実家が被災した学生9名に、学費支援金または災害見舞金を支給した。

本学では被災地学生ボランティア派遣に向け4月16日に宮城県石巻市を視察、同月29日～5月1日の3日間で約160名を派遣した。バス運賃費や混出し作業に必要なカップ、ゴム手袋、粉塵マスク、長靴などの費用は、大学による地域貢献活動支援のために創設された「峰ヶ丘地域貢献ファンド」や大学内で募った震災義援金で充てられた。現地では学生が高校体育館周りの泥出し、幼稚園舎の清掃、寺院の墓地や通路の泥の掻き出しなどを行った。その後



宮城県石巻市への被災地学生ボランティア派遣(2011年4月29日～5月1日)

**時の記憶**  
附属農場を利用した被災地の子どもへの学習支援  
2013(平成25)年8月7、8日の2日間、東日本大震災の被災地の子どもへの学習支援として、宮城県亘理郡の中学生を真岡市の附属農場に招いた「わたり・やまもとキッズサマースクールinとちぎ」が開催された。参加者22名は附属農場に宿泊し、動物とのふれあいやアイスクリーム作り、学生との交流を楽しんだ。学生ボランティア支援室の学生9名を中心に企画運営した。(参考:本学HP)

も数十回にわたり現地への学生派遣だけでなく、被災者を招いたイベントの開催などで支援を続けた。(参考:栃木県HP、宇都宮市HP、【UNow】第25号2011年7月20日付P7、『峰ヶ丘会報』第149号2011年10月20日付P3、5)

## 2011 (平成23) 年～ 地域と連携した放射性物質汚染の低減化

2011 (平成23) 年3月の東京電力福島第一原子力発電所の事故により放出された放射性物質は栃木県内にも飛散し、農耕地の汚染が問題になった。農・食・環境における放射性物質の循環を断ち切る技術対策を確立するために同年6月、本学部とバイオサ

イエンス教育研究センターが協力し、県内の農耕地40カ所の放射線量を測定した。この測定活動は農林水産省が同年8月30日に発表した「農地土壌の放射性物質濃度分布図」の作成にも役立てられた。また栃木県農政課と本学部で栃木県放射線物質対策農業技術委員会(委員長は農政課次長、副委員長は農学部長)を立ち上げ、県内の農業関連放射性物質問題の現状分析と対応策について検討した。農耕地以外にも本学教育学部と協力し、栃木県北部の学校などで放射性物質が濃縮・蓄積している場所の汚染土壌を除去する活動を実施した。(参考:【UNow】第26号2011年11月20日付P7)



農耕地での放射線量測定(2011年)

## 2012 (平成24) 年～ 震災被災地現地調査の実施

2012 (平成24) 年度東日本大震災に係る災害復興再生に向けた宇都宮大学「学長支援プロジェクト」として13年1月15日、農業環境工学科の公開授業「震災復興と農村計画」が実施された。宮城県東松島市の被災者と行政関係者を招き、震災当時の様子や復興の現状と課題について話題提供してもらった。学生や一般参加者も加わって意見交換した。1ヵ月後の2月15日、本学部の学生●名が東松島市大曲地区に出向き、視察と調査を行った。農地や大曲第二排水機場、定川飯橋切工事現場などを訪れ、現場で行われているEC測定(簡易塩分濃度測定)を実施した。

### 創立100周年記念誌「近10年の歩み」の一部

ており、90年誌以降の近10年の内容が厚くなっています。100年の歴史と農学部の今がわかる内容になっておりますので、ぜひご購入ください。

また、長年に渡り発行してきた、峰ヶ丘同窓時報・峰ヶ丘会報を、電子データ(PDF)化いたしました。100周年記念誌にはこれら会報のPDFデータの入ったCDを同封する予定です。懐かしい記事もご覧いただけます。

この100周年記念誌は400冊限定で、1冊5,000円にて販売いたします。購入希望の方は、上記と同様に、本誌に折り返しの返信用ハガキ、またはQRコードから、事前申し込みしていただきますよう、ご協力お願いいたします。支払いと受け渡しの方法につきましては、購入希望者の方に別途お知らせいたします。

### 3. 記念名簿〈同窓会〉

2005 (平成17) 年に個人情報保護法が施行されてから、会員の情報開示者が年々減少、名簿購入者も会員全体のわずか5%となり、名簿の利用価値が大きく変わりました。名簿発行について再度審議し、2023 (令和5) 年の農学部100周年記念に合わせての発行を最後に、冊子での販売は終了することといたしました。最後の冊子での名簿として作成業者(株式会社サラト)に委託しながら作成しています。もうすぐ完成予定です。皆様のご協力に感謝申し上げます。

### 4. シンボルマーク

宇都宮大学農学部が100周年を迎えることを広く学内外に広報するため、シンボルマークを作成しました。デザインを2022年4月1日～2022年5月31日に公募したところ、222作品の応募があり、農学部の教職員・学生による投票により、栃木県にお住いの新保怜奈さんの作品が選ばれました。

ご本人からは、「人と自然が築き上げた100年をイメージし、やわらかいタッチのイラストを入れ温かみのあるロゴに仕上げました。稲を強調し、生き生きとした輝く稲のように、農学部が成長してほしいと願いを込めデザインしました。」と作品に関するコメントをいただきました。また、100周年を迎える農学部に対して、「宇都宮大学農学部100周年誠におめでとうございます。妹がこの学部におりまして多くの事を学び、また、素晴らしい先生方や友人と出会い立派に成長した姿を見せてくれました。この100年の農学の歴史をこれからの更なる発展に生かし、より良い未来となりますよう、願っております。」との嬉しいコメントもいただきました。





## 5. 記念Tシャツ

農学部100周年記念Tシャツを、県内でアパレル・雑貨・インテリアの企画・開発・販売事業を行なっている、「トチギマーケット株式会社」に依頼し、作成していただきました。2デザインで2色の、計4種類のTシャツが出来上がりました。

この記念Tシャツはトチギマーケットのオンラインショップや店舗（ウツノミヤテラス店など）、および宇都宮大学生協で販売中です。2023年6月時点で400枚程ご購入いただいております（1枚当たり500円の寄付金付きで販売しており、現在のところ計20万円ほどの寄付を頂戴いたしました）。



記念Tシャツ

## 6. 記念ポスター

100周年記念ポスターを、農学部の広報係を務めている大野千弥さん（宇都宮大学教育学部 2004年卒）に作成していただきました。峰キャンパス1号館正面玄関横のショールーム他、農学部建物内で掲示しています。

## 7. 附属演習林に描く「U」の字

100周年を記念した農学部のシンボルを作成するため、附属演習林に「U」の字を描く事業が進行中です。塩谷町船生の演習林内の一部を伐採し、宇都宮大学の頭文字の「U」の形にヒノキを植林しました。近隣の道路からもUの字がしっかりと確認できるようになってきています。



附属演習林に描く「U」の字



記念ポスター

## 8. 演習林材でつくった記念箸〈同窓会〉



演習林材でつくった記念箸

峰ヶ丘同窓会から演習林材でつくった記念箸を贈呈いたします。

船生演習林の植林材（ヒノキ）を使った記念箸を、森林科学科卒業生で木工作家の倉持海人さんに制作していただいております。

「記念式典・講演会」に事前申込いただいた農学部卒業50周年以上（昭和48（1973）年3月以前に卒業）の同窓生の方、および「記念祝賀会」に事前申込いただいたすべての同窓生の方などに贈呈させていただく予定です。

「農学部卒業50周年式典事業」については今後も継続していく予定です。

### 〈寄付金のお願い〉

今回、「宇都宮大学3C基金 寄付申込書兼振込書」を同封させていただきました。

農学部100周年記念事業にご賛同いただける場合は、寄付の目的欄で「④」（農学部100周年記念事業への支援）にチェックをお願いいたします。式典や100周年誌をはじめとした記念事業に大切に活用させていただきます。

今後も峰ヶ丘同窓会、農学部、連携しながら100周年記念事業に取り組んで参ります。どうか皆様のお力添えをお願い申し上げます。

# 令和5年度理事会報告

令和5年6月17日(土)14時00分より、宇都宮大学農学部大会議室において令和5年度理事会が開催された。以下に項目別に会議内容を記載する。

## 1. 開 会

司会の福井えみ子常任理事より開会の挨拶があった後、峰ヶ丘会則では「第17条 理事会成立は構成員の過半数の出席を必要とする。」となっており、本日は構成員65名の内、出席者23名、委任者20名の計43名であることから会議が成立していることが報告された。

## 2. 物故者への黙祷

理事会の開催に先立ち、令和元年9月から令和4年10月までの物故者名簿の資料説明があり、物故者への黙祷を行った。

## 3. 同窓会長挨拶

宇田靖会長から挨拶があり、学生支援として学費支援や附属農場産米「ゆうだい21」を使用した100円カレー等の提供、秋に実施される100周年記念事業への協力や準備をしていること、次号の会報は100周年特集号であること、ヒストリカルゾーン整備のこと、冊子体の同窓会名簿は本年秋の発行が最後となること等が紹介された。

## 4. 議長選出

慣例により、宇田靖峰ヶ丘同窓会長が選出され、会場からの拍手をもって承認された。

## 5. 議 事

### (1) 令和4年度会務報告

大久保達弘理事長から、下記について報告された。

#### ①「学生支援制度」の実施

学費支援1件、農学部栄誉賞9件、農学部奨励賞3件。

#### ②生協コラボ100円カレー提供について

大学生協とコラボレーションし、附属農場産米「ゆうだい21」を使って学食に於いて100円カレーの提供およびご飯ものメニュー 30円引きを7/19から8/6まで実施。

#### ③生協コラボ200円ハラル牛丼提供について

②と同様に、200円ハラル牛丼の提供およびご飯ものメニュー 30円ポイントバックを1/30から2/1まで実施。

#### ④理事会及び常任理事会等の開催

対面での理事会は中止。常任理事会は12回開催。

#### ⑤「峰ヶ丘会報」の発刊について

第160号を11月30日に発行。

#### ⑥「教育研究支援制度（教員会員）」の実施

農学部栄誉賞2件。

#### ⑦その他の行事

学位記授与式、入学式へ出席（会長）。新入生歓迎会は中止。会計監査の実施。



### (2) 令和4年度決算報告及び監査報告

守山拓弥常任理事から、一般会計については例年赤字となるが本年は寄付が51万円あったことから赤字とならなかったこと、同窓会事務室の鍵保管のためのキーボックス購入、学生支援経費については学費支援（20万円）が1件あったこともあり予算額を超えていること、予備費から石蔵跡地利用を検討するための説明会での謝金を支出したこと等、決算書についての説明が行われた。

引き続き、岡田武監事から、5月31日に会計監査を実施し、領収書と関係書類の照合を行ったところ上記の通り相違ないとの報告が行われた。

#### (1)、(2)についての質疑等

押久保徹理事から、100円カレーについて学生から非常に良かったとの話を聞いており、この会に出ると話したらお礼を皆さんに伝えてくださいと頼まれてきたとの報告があった。

その他の質疑等は無く、会場からの拍手をもって承認された。

### (3) 常任理事の承認

宇田靖会長から新たに福田竜一先生が常任理事になることが伝えられ、会場からの拍手をもって承認された。

### (4) 会則改正

金野尚武常任理事から、宇都宮大学農学部峰ヶ丘同窓会会則 第1章 第2条(1) 正会員 について、1)には「農学部教授会を構成する教員を主指導教員とする地域創生科学研究科修了生」の追加、2)の「宇都宮大学大学院農学研究科在学学生」の削除（既に在学学生がいらないため）、3)を「宇都宮大学農学部教授会を構成する教員および元教員」に変更するとの改正案の説明が行われた。

質疑等は無く、会場からの拍手をもって承認された。

### (5) 令和5年度事業計画

大久保達弘理事長から下記の通り、事業計画（案）についての説明が行われた。

#### ①「学生支援制度」の実施

②学生支援の実施 100円カレー等および外部の食糧支援団体の広報



- ③理事会及び常任理事会の開催
- ④「峰ヶ丘会報」の発刊 7月に161号(100周年特集号)発行予定
- ⑤農学部への協力支援 母校協力費として30万円の支出
- ⑥大学サポート(石蔵保存)事業
- ⑦「教育研究支援制度(教員会員)」の実施
- ⑧新入生へのお祝い品贈呈 図書カード贈呈
- ⑨支部総会への常任理事の派遣 茨城支部からオファー有
- ⑩会員名簿(最終号)の発刊
- ⑪大学諸行事の協力 入学式、学位記授与式への会長出席
- ⑫農学部創立100周年記念事業  
農学部創立100周年記念誌の発刊支援  
同窓会時報のPDF化  
親子3代表彰  
卒業50年祝典事業 演習林の材で作成した箸を記念品とする。制作者である木工作家の倉持海人氏(森林科学科卒業生)から説明があり、見本も示された。  
その他
- ⑬入会促進事業 入会率が低くなってきていることから、1年生だけでなく2年生以上に対しても入会を勧めていく  
質疑等は無く、会場からの拍手をもって承認された。
- (6) 令和5年度予算  
守山拓弥常任理事から、100周年に関係する特別会計からの支出が多くなること、旅費については支部総会への旅費が増える見込みで増額していること、会報発行費の増額は物価高への対応であること等、予算書の説明が行われた。  
質疑等は無く、会場からの拍手をもって承認された。
- (7) 石蔵保存について  
宇田靖会長から、石蔵について大学側は当初2棟(A棟、B棟)とも改修する方針だったが、物価高等により改修をあきらめて2棟とも解体することに方針転換され、2023年2月から解体工事が始まっていたものの、3月になってB棟だけ解体し、A棟は保存することに急遽方針転換されたこと、A棟を改修保存することに当たって大学から4つの改修案の概要が提示されているものの、詳細な協力要請を待っている段階であること等の説明が行われた。さらに、常任理事会では、同窓生の賛同が得られることを前提に、大学サポート事業として協力することとし、募金拠出による協力は同窓生の意見分布を調査しながら具体化の検討を行い、募金額の拠出では、母校からの整備方針と費用の提示を踏まえて拠出上限を定めて決定することとするとの説明がされ、この件については承認ということではなく、現在の状況を承知しておいていただきたいとの要望があった。

質疑等は無かった。

(8) その他

農学部100周年記念事業について、学部の100周年記念事業準備委員でもある金野尚武常任理事から、下記の通り説明が行われた。

1. 記念式典

2023年11月18日(土)に開催することとし、記念式典と記念講演を宇都宮駅ライトキューブにおいて15時から開催、記念祝賀会をホテルマイステイズ宇都宮において18時から開催。祝賀会の参加者は280名程度を上限とするが式典会場は700名程度収容可能なので多くの方に参加いただきたい。同日には峰キャンパス内で大学祭が開催されている予定。詳細は7月に発行予定の峰ヶ丘会報に掲載する。

2. 100周年記念誌

素晴らしい出来の90周年記念誌があるので、その部分とその後10年の分とで章を分けて作成中。峰ヶ丘同窓時報・峰ヶ丘会報を電子データ(PDF)化したものが入ったCDを付ける予定。

3. 記念名簿

100周年記念と直接関係があるわけではないが、100周年に関わる事業として進めている。現状、1000名程度が購入を希望している。

4. シンボルマーク

公募したところ222作品の応募があり、農学部の教職員・学生による投票により新保怜奈さんの作品が選ばれた。

5. 記念Tシャツ

トチギマーケット株式会社に依頼して作成していただき、1枚当たり500円の寄付金付で販売中。2023年4月までで300枚程購入いただいている。

6. 記念ポスター

農学部広報係の方に作成していただき、農学部の建物内に掲示している。

7. 附属演習林に描く「U」の字

100周年を記念した農学部のシンボル作成のために進行中の事業で、Uの字がきれいに見えるようになってきている。

8. 演習林材でつくった記念箸

卒業50年祝典事業だけでなく、100周年事業でも活用させていただきたいと考えている。  
質疑等は無かった。

以上で、議事が終了した。

6. 閉 会

大栗行昭常任理事から閉会の挨拶があった。例年開催している懇親会はコロナ感染対策の観点から取りやめることにし、代わりにお土産をお持ち帰りいただきたいとの案内があった。

終了後、希望者に対して旧講堂や石蔵のあるヒストリカルゾーンの案内が行われた。

## 会 務 報 告

### 1. 理事会及び常任理事会等の開催

2022. 7. 11 第1回常任理事会  
 2022. 9. 12 第2回常任理事会  
 2022. 10. 13 第3回常任理事会  
 2022. 11. 7 臨時常任理事会（1回目）  
 2022. 11. 14 第4回常任理事会  
 2022. 12. 12 第5回常任理事会  
 2023. 1. 16 第6回常任理事会  
 2023. 2. 20 第7回常任理事会  
 2023. 3. 20 第8回常任理事会  
 2023. 3月 令和4年度宇都宮大学同窓会連絡協議会  
 中止  
 2023. 4. 26 第9回常任理事会  
 2023. 5. 17 臨時常任理事会（2回目）  
 2023. 5. 31 第10回常任理事会  
 2023. 6. 14 第11回常任理事会  
 2023. 6. 17 令和5年度理事会

### 2. その他の行事

2023. 3. 25 学位授与式  
 2023. 4. 4 新入生歓迎会中止  
 2023. 4. 5 入学式  
 2023. 5. 31 会計監査

### 3. 「峰ヶ丘同窓会報」の発行

2022. 11. 30 第160号発行

### 4. 支援制度の実施

- 教員教育研究支援制度（農学部栄誉賞） 計2件  
 学生支援制度  
 （学費支弁1件・農学部栄誉賞9件・農学部奨励賞3件）  
 計13件  
 以上会務報告

## 会長委嘱理事（令和5年度）

- 理 事 長 大久保達弘（林57）  
 常任理事 生物資源科学科 房 相佑（農院H5）  
 福井えみ子（畜院62）  
 香川 清彦（農H3）  
 応用生命化学科 金野 尚武（生化H16）  
 農業環境工学科 守山 拓弥（環院H16）  
 農業経済学科 ○福田 竜一（経H8）  
 （○印：新任）

## 令和5年度理事・監事

- 会 長 宇田 靖（化45）  
 副 会 長 大塚 国一（開48）  
 後藤 達夫（経46） 福島支部長  
 依田 隆夫（開56） 東京支部長  
 大嶋 稲良（開51） 群馬支部長  
 平林 英男（農51） 茨城支部長  
 鈴木 英雄（林H2） 埼玉支部長  
 青柳 俊明（開61） 栃木県庁支部長  
 理 事 長 大久保達弘（林57）  
 常任理事  
 房 相佑（農院H5） 守山 拓弥（環院H16）  
 福井えみ子（畜院62） 福田 竜一（経H8）  
 香川 清彦（農H3） 金野 尚武（生化H16）  
 理 事  
 樋口 弘道（農40） 國谷 渡（経51）  
 菊地 正憲（農45） 黒後 貞夫（経H7）  
 合田 健二（農46） 田所 広起（経H14）  
 木村 陽一（農50） 上野 知彦（経H16）  
 石川 成寿（農52） 山口 直紀（経H17）  
 植木与四郎（農58） 植木 保夫（畜40）  
 川原 直人（生植H7） 石塚 正恵（畜47）  
 鷲尾 一広（生応H7） 吉澤 緑（畜50）  
 上田 正人（生応H8） 押久保 徹（畜57）  
 貝賀 信保（生応H9） 小野 英俊（生動H8）  
 柳田かりん（資源R2） 関屋 晃子（生動H9）  
 小松 茂夫（林45） 上野 武二（工32）  
 立壁 敏夫（林46） 小川 正順（開49）  
 福田 慎造（林51） 福田 保（開50）  
 斉藤 倫明（林55） 五月女寛行（環H7）  
 津布久 隆（林58） 飯塚 幸恵（環H8）  
 篠崎 武彦（森H7） 大久保尚彦（環H12）  
 潮田 健司（森H10） 加藤 秀正（化40）  
 木野本 亮（森H12） 杉田 和之（化50）  
 小島 延介（経33） 本島 俊明（化57）  
 花塚 功先（経40） 田崎 公久（生化H10）  
 津谷 好人（経45） 石原島由依（生命H29）  
 関川 元樹（経50） 高橋 廣美（総42）  
 監 事  
 中山 喜一（農56） 清水 靖夫（開59）  
 岡田 武（畜45）  
 顧 問  
 学 長 池田 宰  
 学部長 山根 健治  
 竹永 博（工40）  
 松澤 康男（農41）



## 支部長一覧

支部未加入の方、転居等で支部が変わられた方は、支部長へ御一報をよろしくお願いします。

支部名	卒年	氏名	電話番号
北海道	昭53林	高橋 伸吉	
青森	昭39林	小野 隆一	
秋田	昭49農	保坂 進	
岩手	昭45農	山口 和彦	
宮城	昭46畜	氏家 清明	
山形	昭45化	佐藤 淳司	
福島	昭46経	後藤 達夫	
新潟	昭40工	春日 健一	
長野	昭37農	高野 義文	
群馬	昭51開	大嶋 稲良	
栃木県庁	昭61開	青柳 俊明	
宇大	昭57林	大久保達弘	
塩谷	昭33林	田鹿 元貞	
茨城	昭51農	平林 英男	
千葉	昭54開	綱 康次郎	
神奈川	昭43工	平野 昭雄	
東京	昭56開	依田 隆夫	
埼玉	平2林	鈴木 英雄	
静岡(代)	平29森	大高 諒大	
山梨	昭25林	武川 仁	
岐阜	昭50経	石樽 正治	
三重	昭34林	望月三佐男	
和歌山	昭49開	中尾 健	
奈良	昭48林	住友 重美	
京都	昭49林	松下 正徳	
石川	昭42農	塩口 直樹	
富山	昭49農	横山 直一	
兵庫	昭39工	牛島 眞一	
山口	昭48農	福田昭二郎	
鳥取	昭34経	居吹 直文	
岡山	昭42林	齋藤 允利	
高知(代)			
福岡	昭45開	高宮 清	
佐賀	昭50化	合瀬 健一	
長崎	昭55開	曾我 忠治	
熊本	昭48畜	中尾 悦郎	
大分	昭41総	江無田哲生	
宮崎	昭44林	土持 勲	
沖縄(代)	昭37畜	玉木 正邦	

## お悔やみ

下記の方々のご冥福をお祈り致します。  
令和4年9月～令和5年6月現在までの物故者

(H:平成)

※事務局で把握しているものの掲載です。

### 農学科

農 9:石田 一郎  
農23:鹿山 光  
農24:関 信夫  
農25:和賀井睦夫  
農26:見目 孔一  
農30:瀧澤喜美雄  
農32:坪山 宏  
農38:山口 祐司  
農47:馬場あつ子  
農61:小坂橋基夫

農23:吉原 理夫  
農23:池田 定男  
農24:小坏 信一  
農25:神山 功  
農28:坂田 久夫  
農31:中村 修  
農34:佐藤 豁  
農45:小林 健治  
農56:梶 和彦

### 林学科

林25:小早川 清  
林31:吉田 智次  
林32:大野 巖  
林33:山田龍太郎  
林34:磯 利彦  
林39:高野 佳延  
林47:藤川 伸一

林28:宮本 秀夫  
林31:北林 實  
林32:福田 浩二  
林33:長谷部豊三  
林36:杉山 栄  
林41:角田 脩道

### 農業経済学科

経14:井上 正勝  
経22:手塚 裕司  
経23:小沢 克巳  
経24:鈴木 基司  
経32:松下 榮壯  
経33:伊藤 重久  
経36:森島 康弘  
経36:手塚 智之  
経36:城間 武彦  
経45:薄井 正昭  
経46:水尾 正志  
経53:福島 努

経19:丸山 治郎  
経22:梁 仁豪  
経24:臼井 尚夫  
経25:渡辺 渡  
経33:加藤 哲郎  
経35:古川 義祐  
経36:上島 龍彦  
経36:小林 茂喜  
経45:加賀美和正  
経45:恩田 稔  
経51:土屋 信  
経55:野口 隆夫

### 獣医畜産学科

獣24:川島 馨  
畜32:峰田 忠雄  
畜36:真瀬吉之助  
畜43:野々口忠之  
畜51:河野 和巳

獣25:平沢 幸夫  
畜33:豊住 登  
畜38:有賀 正人  
畜47:村山 稔

### 農業工学科

工23:小田切資郎  
工29:鈴木 清吾  
工35:関谷 清吉  
工36:五十嵐修平  
工39:小林 進

工24:中村 浩  
工29:丹下 律夫  
工35:稲見 安雄  
工38:宮下 紀雄  
工43:松原 靖男

### 農芸化学科

化24:田上 隆司  
化26:川島 操  
化30:姥澤 角雄  
化32:加藤 悟  
化36:宮田 勝義

化26:堀場 敏男  
化29:鈴木 久雄  
化31:小島 玲子  
化34:覺張トキ子  
化42:須永 文雄

### 総合農学科

総30:今井 徳平  
総30:細越 太一  
総34:小藤 勇  
総34:杉本 忠三  
総38:唐橋 益

総30:斉藤 恵重  
総33:宮本 二郎  
総34:佐藤 正三  
総37:篠崎 章

### 生物生産科学科

生応生平10:後藤 紀子

名誉教授 松川 進 久保 辰雄 寺中 理明

## お祝い

このたびは、おめでとうございます。

## 叙 勲

2015 春	瑞宝小綬章	古橋 光弘	経38
2019 春	瑞宝小綬章	佐藤憲之助	農44
2022 4月1日	瑞宝双光章	白石 禎美	経29
2022 5月1日	瑞宝小綬章	石井 稲吉	総32
2022 10月1日	瑞宝小綬章	森山 良一	農32
2022 春	瑞宝双光章	小板橋基夫	農61
2022 秋	瑞宝小綬章	片貝 勝	畜43
2022 秋	瑞宝中綬章	奥田 誠一	名誉教授
2023 春	瑞宝双光章	北村 忠夫	化43

## 知事表彰など

令和3年度	農業改良普及功労者	緑白綬有功章	星 佐多男	農45
令和4年度	栃木県・県民生活消費生活功労者		岡本 安之	農34
令和4年度	栃木県・社会福祉関係功労者		森山 良一	農32

## 慶弔についてのご連絡

峰ヶ丘同窓会会員の慶事および弔事の際には、会員の方々からのご連絡に基づいて対応しております。慶弔事が発生しました際には、下記事務局までご連絡ください。

## I. 慶事（褒賞、叙勲等）の場合

1. 受章者、受賞者の氏名、年齢、卒業年次、学科、住所、電話等
2. 受章、受賞の種類（褒賞、叙勲その他の賞の種類）
3. 受章、受賞の日時

なお、叙勲のご連絡は、新聞などに掲載されますが、学歴まで記されておりませんので、事務局で判断し掲載することができません。関係各位からのご連絡により、ご報告とさせていただきます。何とぞご了承のほどをお願いいたします。

## II. 弔事の場合

会員、会員以外の顧問・元顧問、現職教員、元教員が対象となります。

1. 逝去者の氏名、逝去日、卒業年次、学科
2. ご遺族（喪主）の氏名（逝去者との続柄）
3. 通夜・告別式の日時、場所

なお、事務局宛にご連絡がない場合、当方からの郵便物の送付を中止できませんので、何とぞご了承のほどをお願いいたします。

●連絡先：峰ヶ丘同窓会事務局  
TEL：028 (649) 5400  
E-mail：minegaok@cc.utsunomiya-u.ac.jp  
月・水・金 9：00～17：00

## 寄贈図書

「やまがたの米づくり 山形県戦後稲作史」

田中 順一

## 昨年度退職の教員

令和5年3月31日をもちまして、以下の教員が退職されました。

・大栗 行昭

## 今年度定年退職予定の教員

令和6年3月をもちまして、以下の教員が退職されます。令和6年3月までの連絡先は、以下の通りです。

- ・関本 均：生物資源科学科 028-649-5425  
hitoshis@cc.utsunomiya-u.ac.jp
- ・秋山 満：農業経済学科 028-649-5517  
akiyamam@cc.utsunomiya-u.ac.jp
- ・大久保達弘：森林科学科 028-649-5544  
ohkubo@cc.utsunomiya-u.ac.jp
- ・飯塚 和也：附属演習林 0287-47-0057  
kiizuka@cc.utsunomiya-u.ac.jp

次回会報発行日程  
原稿締め切り日のお知らせ

同窓会では皆様からの情報をお待ちしております。次号の会報は、2024年10月に発行する予定です。原稿の締め切りは2024年6月末となりますのでご了承ください。宜しくお願いいたします。

## お知らせ

大関一雄さん（農学科・昭和58年卒）が令和5年4月23日の統一地方選挙において栃木県芳賀町長に就任されました。

## 編集後記

今回、創立百周年同窓会会報特集号を作成するにあたり、多くの同窓生の皆様にご寄稿いただきました。突然のお願いにも関わらず快くお引き受けいただき、そして素敵な文章をお送りいただき心より感謝申し上げます。この創立百周年事業が同窓生の皆様にとって、人、場所、思い出と「再会」する良い機会となることを願っております。（文責：金野）



# こ な こ と

## やっています (その17)

### 農業生産環境保全学プログラム

みなさん、こんにちは！ 農学部 齋藤です。

地域創生科学研究科工農総合科学専攻農業生産環境保全学、私達のプログラム名になります。なんとも長く申し訳ございません。このプログラム、所属教員が24名、修士2年生39名、修士1年生20名と、農学部で最も大きい所帯になります。もちろん、このプログラムの教員の出身母体は、生物資源科学科、農業環境工学科、雑草と里山、附属農場・・・と多岐にわたります。守備範囲も、植物、動物、昆虫、雑草、環境、機械、エネルギー、食品と多岐にわり、言語やツールも様々な状態です。と言いますと、バラバラ？無秩序？などと思われるかもしれませんが、意外とまとまっているのです。ある意味、背景が様々であると、お互いに尊敬と敬意の念に溢れ、皆わかまえながら(?)行動しているような気が致します。



学生さんの、修士号の取得までには、研究指導計画、研究経過報告、1年時の中間発表、2年時の修論発表会、修士論文の提出と学位審査をクリアすることが求められます。もちろん、授業でも地域創生リテラシーから6単位以上・専門科目から24単位以上等のクラスワークも求められ、学生さん中々忙しい毎日になります。さらに、就職戦線も売り手市場とはいえ、1年時のインターンシップなどによる青田買いも幅を占め、修士課程入学後、早々に将来の事も考え準備を進めることが、望む進路を手に入れるための近道になります。諸先輩方が修士課程に在学されていたころは、きつともっと、おおらかに、時にとことん指導教員や仲間と語り合い、お互いが生に擦れ合いながら、研究・学生生活を謳歌されていたのかもしれませんが、どちらが良いのか、答え探しは簡単ではありません。

今のこの時代、スマホ1台で全世界と繋がれます。世界でおきている生の情報に出会えます。しかし、ネット上での日本語での情報は全体のわずか4%程度、55%は英語です(2023)。

コロナ明けのこの頃。世界とのチャンネルを広げ、リアルに世界に羽ばたき、若いうちに世界を旅して、多様性を肌で感じ取ってもらいたいと思い、「海外に行こう！観光旅行からで大丈夫」といつも院生に言っている私です。是非、諸先輩方からも、現役の教職員や学生への多方面からの支援や激励、宜しく願い致します。

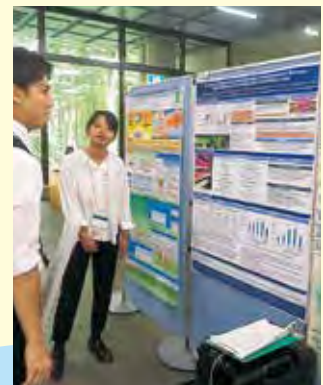
(文責：農業生産環境保全学プログラム長 齋藤 高弘)



留学生も頑張っています  
(修士論文中間発表会：2022, 12)



無事終わりました！  
(修士論文中間発表会：2022, 12)



学会にて英語でポスター

フアイレング用中心点